

Japanese  
As The Eagle Stirreth  
60-0403

# 「鷲がその巣をかき立てるように」

トルサ オクラホマ州 アメリカ合衆国  
1960年04月03日



[www.messagehub.info](http://www.messagehub.info)

ウィリアム・マリオン・ブラハム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7

## はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

117 これだ、友達。神様を讃えましょう。おお主よ、あなたはここにいます。私は悪魔のあらゆる行為を非難します。私はあらゆる悪霊を非難します。サタン、あなたは暴露されています。あなたはイエス キリストの御名によって叱責されます。I charge thee by the living God; come out of this audience。私は生ける神によってあなたを請求する；この聴衆から出てきてください。もう彼らに疑わせることはできません。聖霊は彼らの前でご自身を現実にされました。もう彼らに疑わせることはできません。彼らはお互いに手を繋いだ。イエスは言われた。「“これらのしるしは信じる者たちに従うであろう。もし彼らが病人に手を置けば、彼らは回復するであろう。”」サタン、あなたは道に迷っています。イエスは近くにおられます、あなたは天の神です。これらの人々に対して病気の力と悪魔の力が打ち砕かれますように。イエス キリストの御名において。

## 「驚がその巣をかき立てるように」

1 少しの間、祈りのために立ったままでいましょう。

ああ、最後の集会というものは、いつも私の心に深く迫ってきます。どういうわけか、私たちが互いを見いだし、知り合うようになり、そして交わりを始めたばかりの頃に、もう別の場所へ行く時が来てしまうのです。

それはいつも、私に少し寂しい思いを与えます。

しかし、前を見上げる時、私は、いつの日か私たちが皆ふたたび会う日を待ち望んでいます。もし私たちがこの地上で再び会う前にイエスが来られるなら、私たちは、もう二度と、二度と別れることのない場所で会うのです。

この午後、祈りの中で神に覚えていただきたいと思う方は、どれくらいおられますか。手を挙げてください。

主があなたがたを祝福してくださいますように。

では、少しの間、頭を垂れましょう。

2 全能なる神よ、天と地の創造主、永遠の命の創始者、そしてすべての良き賜物をお与えになる方よ。

私たちは、御子イエスの御名による祈りをもって、あなたの憐れみの陰に入り、あなたの御前に感謝をささげます。この偉大なタルサでの集会のために、そしてそれが私たちにとって何を意味したかのゆえに、感謝いたします。

この素晴らしい人々、彼らの内におられるあなたの聖霊、それは私たちの心の中に決して忘れることのできない場所を残しました。何という交わりだったことでしょう。私たちの人生における、天国のほんの一触れのようなもの、決して忘れることのできない経験でした。

父よ、どうかあなたの御霊が、いつもこの人々の内にとどまってくださいますように。この小さな集まりの本質から、国中のすべての教会にリバイバルが起こりますように。大いなるしるしと不思議が成し遂げられますように。

主よ、どうかこれらのことをお与えくださいますように。

3 この午後、この机の上には、病んでいる方々、苦しんでいる方々のもとへ送られていくハンカチや、小さな布切れが置かれています。

全能なる神よ、イエスの御名によってあなたに祈ります。これらに触れる病のある人々が、どうか癒されますように。

父よ、それは私自身の祈りだけではありません。この午後、この大きな会堂いっぱい集まっているクリスチャンたちの祈りでもあります。私たちは、必要を抱えている人々のために、心を一つにしてこれをあなたにささげます。

主よ、この日のこれからの集まりにおいても、私たちを祝福してくださいますように。

今晚の諸教会のためにも祈ります。すべての教会に、言い表せないほどの栄光と喜びがありますように。

この午後、あなたの臨在の大いなる注ぎをお与えください。聖霊が御言葉の中に来てくださり、御言葉が私たちの肉の中に現れ、この午後、私たちと共にここに宿ってくださいますように。

イエスの御名によって願い求めます。アーメン。

お座りください。

4 すべての伝道者の皆さま、一人ひとりの働き人の皆さま、管理をしてくださった方、案内係の方々、そしてすべての皆さまへ。

私自身と、私の一行——デイビッド兄弟、ロイ兄弟、ビリー・ポール、ロイス、フレッド・ソスマン兄弟、ジム・マグワイア兄弟、ジーン兄弟、そしてレオ——私たち皆から、心より感謝申し上げたいと思います。

この集会において、皆さまが示して下さったご親切、そして私たちにとって皆さまがどれほど大きな意味を持って下さったか、そのことに感謝いたします。

皆さまは本当に、非常に親切にしてくださいました。私たちの心の中に、皆さまへの深い尊敬と愛が集められました。それは決して消されることはありません。消えないしるしとして刻まれています。

そして私たちは、神が皆さまに、皆さまが思うこと、願うことさえできるすべてをはるかに超えて、豊かに与えてくださることを信じています。

神が、御子イエス・キリストの恵みの富のうちに、それを皆さまに与えてくださいますように。

緊張しています、いつもあなたの人生ずっとそうでした。神のご加護がありますように。神経疾患や腎臓疾患に悩まされている人は、立ち上がってください。立ち上がれ、それを持っている人は皆。今すぐ信じて、イエス・キリストを信じなさい。そこに立ってください。

主なる神よ、私たちの兄弟を憐れみ、イエス・キリストの御名によって彼を良くしてくださいますように。アーメン。

信仰を持ちなさい。今信じますか、親愛なる妹？主イエスの御名によって、父よ、神の栄光のために彼女が癒されますように。

115 何かが起こっています。それだけか ビリー？はい、ここに来てください、先生。私たちはお互いに見知らぬ人ですか？神は私たち二人をご存知ですよ？ああ、それはどこでも起こっているだけです。

説教者、兄弟たち、私の大切な驚の兄弟たちを思い出してください。私がおここから何週間もいなくなったら、あなたの会衆が癒されたと言っていることに気づくでしょう。彼らは治っていますが、それを知りません。ほら、ほら？それはどこでも起こっているのです。そもそもなぜ私たちはこのような信仰を持てなかったのでしょうか、友人たち？これだ。

神があなたを助けてくれると信じていますか？神があなたの悩みを教えてくれると信じていますか？ひどい頭痛がしますね。めまいがする。首の成長が原因です。そうだね。あなたは神があなたが誰であるかを知っていると信じていますか？あなたは大臣です。あなたの名前はジャック コール牧師です。まさにその通りです。行ってください、信じてください、先生。

116 めまいや頭痛のある人は、立ち上がってください。病気のある人はみんな立ち上がってください。ああ神様、もしそうなったら何が起こるのでしょうか... 何が起こり得るのでしょうか？信じますか？このものが聖霊であると確信している信者がここに何人いるのでしょうか？手を挙げてください。そんなことできないよ。

あなたは信者ですか？お互いに手を置き、悪魔に手を伸ばした相手から離れるように頼みます。あなたの祈りは私と同じくらい良いです。お互いに手を合わせます。そうです、そこにいる女性、結核であなたは去ってしまいました。

前立腺のトラブルであなたは去ってしまいました、兄弟。手を下ろして賛美を叫ぶこともできます...？…あの小さな女性がそこに立っているのに。永久に消えてしまった。イエス キリストはあなたをよくしてくださいます。

はありません。彼はセントルイスにいます。彼は入院中だ。彼は心臓に問題を抱えており、一大臣を務めています。そして、私が通り過ぎてあなたに手を置いたら、あなたは一私が何を言っているのか分からないだろうと思いました。でも知ってた。だからあなたは自分の道を進みます。彼はこれから元気になって...? ... よし。信仰を持ちなさい。どうぞ。

ここには、殺された娘について今同じことを考えている別の女性がいます。ウェザーマン夫人—ウォーターマン、そうです。ウォーターマン夫人、今心から信じてください。あなたの娘さんは目的のために連れて行かれました。疑わないうで。神を信じなさい。

113 おお神よ、イエス・キリストの御名によって、彼が癒されますように。アーメン。

今すぐ心を込めて信じて来ててください。天と地の創造主である主なる神よ、イエス・キリストの御名によってこの女性に癒しを与えてください。アーメン。今すぐ信じてください。

さあ、見てください。There's not a medical cure; but there's a heavenly cure. 医学的な治療法はない; しかし、天国の治療法がある。そうだね。あなたは自分が普通で元気だと信じていますか? 呪い... 私はこの子供に悪を行ったこの悪魔を呪います。そして私はイエス・キリストの名において、この呪いをそこから取り除きます。普通の子供でありますように。アーメン。そうでなければならぬ。よし。

喜びながら進み、元気になって、夕食を食べてください。..

よし。さあ、先生、心から信じてください。主イエスの御名によって、彼が癒されますように。アーメン。

114 それはわずか1分で聴衆の多くの場所に衝撃を与えました。それは... ところで、ここには胃が緊張している人が何人いますか? 手を挙げて。あまりにも多いので、できません... そこに見えますか? お腹が緊張している人は、立ち上がってください。ここでそれを取り除きます。ちょっとだけ立ち上がってください。じっとしててください、先生。行け、信じて、兄さん。イエス キリストの御名によって、あなたが癒されますように。

さあ、今。心を込めて信じろ。信じますか、お姉さん? イエス キリストの御名によって、あなたが癒されますように。

5 トミー・オズボーン兄弟——彼はこの集会に来ておられます——主なる神がトミー兄弟と共にいてくださいますように。

オーラル兄弟は今日の午後、出発しましたが、脚の靭帯か何かを痛めたようです。礼拝が終わり次第、私は彼のために祈りに向かうつもりです。

そして今、ロバーツ兄弟のスタッフの皆さま、トミー兄弟のスタッフの皆さま、諸教会、そしてすべての皆さまに、神が共にいてくださいますように。これが私の祈りです。

この時のことは、皆さまはいつまでも私の心の中に残ることでしょう。タルサが長く立ち続け、神の働きがその中に長くとどまりますように。これが私たちの祈りです。

そして、いつかまた皆さまのところへ戻って来られることを願っています。もし私たちが、どのような形であれ皆さまのお役に立てるなら……。

私は以前、よくこう言ったものです。夜がどれほど暗くなっても、雨がどれほど激しく降っても、私たちは、自分たちの力の及ぶ限り、皆さまの人生を少しでも慰められたもの、祝福されたものにするためなら、何でもしたいのです。

もし私たちに何かお手伝いできることがあれば、どうぞ知らせてください。インディアナ州ジェファーソンビル、バトラー2-1519へお電話くださっても構いません。あるいは、ただジェファーソンビルの私のところへお電話ください。

祈りの布をお送りすることもできます。あなたのために祈ることもできます。私たちにできることなら、何でもいたします。

私たちは、主にあつて皆さまのしもべです。

6 ですから、このように素晴らしい時を過ごしている集会の終わりに来るというのは、少しつらいことです。しかし、いつかはどうしても行かなければなりません。

けれども、私たちはこのことを知っています。川の向こう側に——いつの日か、この人生がすべて終わり、空いっぱい広げられるあの大なる食卓、婚宴の晩餐の席に私が着く時、そして私たちが互いに食卓の向こうから顔を見合わせる時、私たちはこのオークランドでの時を思い出すことでしょう。

きっと、喜びのために小さな涙が頬を伝うかもしれません。すると、すべての美しさを備えた王が、愛らしい白い衣をまとって現れ、私たちの目からすべて

の涙をぬぐってくださいませ。そして言われるのです。

「もう泣かなくてよい。すべては終わった。世の基の置かれる前からあなたがたのために備えられていた、主の喜びに入りなさい。」

それこそ、私が生きている時なのです。

7 ここにおられる協力伝道者の皆さんを見渡すと、私より年上の方々が多くおられるのが分かります。

おそらく、皆さんは通りに出て、ギターやタンバリンを持ち、道を整え、敷石を置き、荒れたところを平らにしてくださいませたのでしよう。それによって、主が私に与えてくださいましたこの働きが、道をなめらかに進んで行けるようにしてくださいませたのです。

私の尊い兄弟たちよ、私がここに立ち、皆さんが下におられることに、私は自分を小さく感じます。本当にそうです。もし何か榮譽が与えられるべきなら、それは皆さんに向けられるべきです。

神がいつまでも豊かに皆さんを祝福して下さいますように。

あの日、報いが与えられる時、皆さんが神の栄光のうちに冠を受けるのを、私もその場に立って見ていたいと願っています。

少し前、私は奥で一人の伝道者と話していました。彼の名前はネイサン兄弟だと言っていました。彼はユダヤ人の間で働いています。

そして彼は言いました。

「ブラナム兄弟、あなたがここに来られた最初の夜のことです。私と妻がいました。妻は病気でした。」

そして彼は言いました。

「あなたは集会の中で呼び出し、私が誰であるか、また私の妻のことと、彼女の病について告げられました。」

彼は言いました。

「妻はそれ以来、ずっと良くなり続けています。本当に順調です。」

そのほかにも、本当に多くの素晴らしい手紙や証があります。

しょうか..役に立つと思う?それから糖尿病、心臓疾患、あなたの道を進み、よくなり、神を信じてください。はい、それは単に老いがやってくるだけです。さあ、それを信じに行きましょう。主よ、あなたが私たちの兄弟を癒し、元気にしてくださいませますように。アーメン。神様、それを許してください。

さあ、妹さん。主イエスの御名によって、彼女が癒されますように。アーメン。神の祝福を尋ねても、どうして失敗するのでしょうか?主よ、イエス・キリストの御名において、そうなりますように。アーメン。

来い 兄貴。イエス・キリストの御名によって、私たちの兄弟が癒されますように。アーメン。

さあ、兄弟よ。神のご加護がありますように。お母さんをすぐ連れてきてください。さあ、姉さん。イエス キリストの御名によって、あなたが癒されますように。

来る。イエス・キリストの御名によって、私たちの妹が癒されますように、父よ。はい、今信じてください。疑わなければ、そこでも同じことが起こるでしょう。

111 おお神よ、この哀れな兄弟を祝福してください。天の父よ、あなたが彼を癒し、元気にしてくださいませよう祈ります。そして、イエスの御名によって、彼が視力を受け、よくなれるようにしましょう。アーメン。

信仰を持ちなさい、今。疑わないで。治らない。彼はただここにいる。彼はヒーラーだ。疑わないで。盲目のバルティマイオスのように、手を探し続けなさい。

イエス・キリストの名において..?...この妹が癒されますように。

よし。さあ、妹さん。皆さん、本物を信じていますか...

何かあった。ちょっとだけ。あの仲間の設定では喘息を患っていますね、先生。そうだね。あなたは祈っていました。振り返ってこう言いました。“素晴らしいと思いませんか?” もう一つ言っておきますが、彼らは胃の問題で胃の約3分の2を取り出しました。そうですよね? そうだとしたら手を振って。そして私たちはお互いに見知らぬ人です。イエス キリストはあなたを癒されました。あなたの信仰があなたを良くしました。喜びながら道を進みましょう。

ああ、疑わないで、信じてください。

112 わかりました、お嬢さん。あなた.. ちょっと待って。さて、あなたは自分のためにここにいるわけではありません。あなたは他の誰かのためにここにいます。そうだね。そしてあなたの兄弟はここにいません。あなたの弟はまだこの状態で

さあ、姉さん、心から信じて。彼女はもう元気になって視力もすべて得られると信じてください。主よ、あなたがイエス・キリストの名において彼女を癒してくださいよう祈ります。アーメン。

108 先日の夜、15歳か16歳くらいの小さな男の子のために祈っていた彼は、大きな信仰を持った小さな男の子として通り過ぎました。私は彼を見て、「“もちろん、息子よ”」と言いました。そして—そして彼は外に出て、そこへ歩いて行きました。すると、生まれつき目が見えない小さな男の子が視力を受け取って叫び返しました。“ああ、ブランナム兄弟、見えますよ。”

ここには、水頭の赤ん坊が、通りかかった一晩でそんなに縮んでしまった紐が横たわっています。物事が起こっています。信じなければなりません。ほら？あなたは鶏ではありません；あなたはワシです。

109 来る。主よ、イエスの御名によって、彼女が神の栄光のために癒されますように。アーメン。

信じて、信じて来てください。あのね、何か… 私が何を考えているか知っていますか、友達？私は—そうではありません—人々を叱っているわけではありませんが、一つだけ知っておいてほしいことがあります。それは、私たちの生活にはテレビが多すぎるということです。私たちはエンターテイメントを望んでいます。私たちは.. 神はあなたを楽しませるために物事を見せているわけではありません。彼はあなたに自分の存在を認識してもらいたいと考えています。それらのことは誰にでも起こる可能性があります、それはほとんど人を殺すでしょう。ああ、列を抜けられないだろう。

ほら、こっちへおいで、お嬢さん。あなたと私はお互いに見知らぬ人です。あなたの何が問題なのか、神様が教えてくれると思いますか？would—それはあなたを助けますか？もし—もし—もし神がこの女性に今何か言ってくれたら、それはあなたたち全員を助けるのでしょうか？それはあなたの耳です。神がそれをうまくやってくれると信じていますか？癌だと怖いんだろ。そしてそれはあなたの左耳にあります。は.. そうだろ？まあ、そうでしたが、今はそうではありません。

さあ、見てください。あなたは神を信じますか？神があなたが誰なのか教えてくれるなら、それはあなたを助けるのでしょうか？わかった、ルビー・コンスタンス、家に帰ってイエス・キリストの名においてよくなりなさい。ほら？信仰を持ちなさい。

110 今すぐ来なさい。疑わないで。神様はあなたの悩みを私に教えてくれるで

8 さて、もしかすると、あなたはここにハンカチを持って来られなかったかもしれませんが。もし私たちが何かの形でお役に立てるなら、小さな布をお送りすることもできます。

さて、簡単な用紙があります。私たちには、世界中を巡っている祈りのリストがあります。人々は夜のあらゆる時間に起きて、この祈りのリストを守っているのです。

東部標準時で、私たちは朝九時、正午12時、そして午後3時に祈ります。それは、古いユダヤの契約における犠牲の時間です。

私たちはその時に祈ります。そして世界中の人々が、それぞれ違った時間に起き、大きな祈りの鎖の中で、互いのために共に祈るのです。

ですから、私は神が祈りを聞いてくださると確信しています。神がなされた、実に驚くべきことが次々と届いています。

そして私たちは、あなたを私たちの祈りのリストに載せ、その時間に私たちと共に祈りたいと願っています。

9 そして今、主のみこころなら、私はおそらく近いうちにまた海外へ行くことになるでしょう。ここで少しの資金が集められています……。

ところで—主が今それを言わせてくださったので思い出しました—私のために、二度ほど愛の献金を取ってくださったと思います。皆さん、それを私がどれほど感謝しているか、ご存じでしょう。

しかし、その一セントたりとも、私個人のためには使われません。それは海外宣教のために、教会の基金へ入れられます。

そして私たちは、そのお金が、福音を聞くことのできない人々、ここへ来ることのできない人々のために用いられるよう、できる限り最善を尽くします。

私たちは最善を尽くします。

神がいつまでも豊かに皆さまを祝福して下さいますように。これが私の心からの祈りです。

10 そして今、もしこの祈りの布の一つが欲しい方がいれば、どうぞ私に手紙を書いてください。ただ、私書箱325番、あるいはインディアナ州ジェファーソンビルとだけ書いてくだされば、私のところへ届きます。

そして、それを聖書の中に保管したいなら、使徒行伝19章のところに挟んでおいてください。

本当に多くの方々が、私に話してくれました……。

ある婦人はこう言いました。たしか彼女の息子が自動車にはねられ、ガラスによるけがで出血し、死にかけていたのです。そこで彼女はすぐに走って行って、このリボンを持って来ました。彼女は田舎に住んでいました。そして、その小さなリボンを少年の上に置いたところ、血がすぐに止まったのです。

そのようなことが、たくさんあります。

ドイツにいた一人の婦人は、麻痺していました。

それには、何をすべきかが書いてあります。この布があなたの上、心臓のあたりに置かれる時、クリスチャンの隣人たちを集めなさい、と。

彼女は言いました。すべてがその通りに行われた後——彼女は何年もの間、麻痺していました——それがすべて成し遂げられた時、彼女はこう言ったのです。

「サタンよ、もうあなたには、ほかに入り込む余地はありません。私から出て行きなさい。」

すると彼女は椅子から立ち上がり、歩いて行ったのです。

それは本当に、それほど単純なことなのです。分かりますね。

ですから、もし一つ欲しい方がいれば、費用はかかりません。代金もいりません。ただ送ってください。そうすれば、私たちはそれを郵便でまっすぐあなたのもとへお送りします。

それには、どのようにすればよいかを記した謄写版の用紙が同封されます。しかし覚えておいてください。あなたに送られるその布の上で、私は個人的に祈っております。

11 もし私の赤ん坊が病気であったなら、あるいは妻、父、母が病気であったなら、そして誰かの祈りに信頼を置いているなら、私は秘書の祈りではなく、その人自身に祈ってもらいたいと思うでしょう。

「人にしてもらいたいと思うことを、人にもそのようにしなさい。」

106 信じますか?なぜ、なぜ?聞く。あなたに聞きたいんです。いいか 友達。聖書には、人々がここに来るとき、“彼らは病人に手を置き、回復するだろう”と彼らに言うのと同じくらい、こう書かれています。それを信じないのか?確かにあなたは信じています。

ここを見てください、先生。あなたは私が神の僕であると信じますか?さて、少し前にやめた女性がいます;あなたは男性です。あなたは、神があなたの悩みを私に教えて—そしてあなたを元気にしてくれると信じています。あなたは...はい 先生。主よ、あなた—お腹のトラブルが少し気になることの1つです。そうだね。はい、はい、はい、先生。そして前立腺。はい 先生。なぜなら、前立腺はあなたを緊張させ、それがあなたを動揺させるからです。まさにその通りです。信じられるなら奥さんも元気になると思いますか?よし。心から信じるなら、奥さんは癒されるよ。[兄は言います、“彼女は病気です”]はい、緊張、動揺、弱さなどです。今、彼女は癒されると心から信じていますか?道を進んで、「“ありがとう、親愛なる主イエスよ”」とってください。そうすれば彼女も元気になるでしょう。

主イエスよ、主よ、あなたがこれを助け、彼の—神の栄光が彼に降りかかり、彼が癒されるようにして下さいますように祈ります。イエス キリストの御名において。アーメン。

さあ、信じに行きましょう、ドブスさん、心から信じて、元気になってください。

107 わかりました、先生。来てください、先生。天の父よ、あなたが私たちの兄弟を癒し、イエスの御名によって彼をよくして下さるよう祈ります。

さあ、親愛なる妹よ;今すぐ心を込めて彼を信じてください。おお、私たちの父なる神よ、あなたがイエスの御名によって彼女をよくして下さるよう祈ります。

来い 兄さん。小さな子を連れて来い。今は疑わないで。十字架の下に来るように、彼を連れてきてください。主よ、私はイエスの御名によって彼らを祝福します。アーメン。

来なさい、姉さん。さあ、心を込めて信じてください。そして父よ、イエスの御名によって、あなたが彼女を癒して下さるよう祈ります。アーメン。

今すぐ信じて、本当に敬虔になってください。心を込めて信じて。主イエスの御名によって、彼女が癒されますように、主よ。アーメン。

ます。アーメン。今すぐ信じてください。

今すぐ信じてください、お姉さん、来てください... これらすべて... ほら、ここには今、あなたのために祈っている人が3,000人近くいます。イエスの御名によって彼女が癒されますように。許可してください、お父さん。

さあ、先生、もしあなたが今信仰を持っていなければ、いつかその関節炎があなたを襲うでしょう。今それを信じますか？それから行って、イエス キリストの御名によって癒されなさい。

来なさい、姉さん。父なる神よ、主イエスの御名によって、私たちの妹を癒してください。

今すぐ信じて来なさい。誰もが信じて祈ります。

天の父よ、あなたがイエスの御名によって彼女を癒して下さるよう祈ります。アーメン。

来る。さて、兄弟、もし私たちがすべての人にビジョンを持っていたら、それはただ... あなたは一私は... 彼らは私をプラットフォームから降ろさなければなりませんでしょう。ほら？降りるよ。でも、知っておいてほしいのですが、今晚夕食を食べに行きましょう。本当に美味しくなりますよ。お腹のトラブルであなたは残ってしまいましたね？行って癒されなさい。神のご加護がありますように。

105 来て 姉さん。友達、私は目的を持ってそうしているんです。ビジョンがあるから... イエスが「“美德は私から消えた”」と言われたことを知っている人は何人いるでしょうか？私は今、本当に本当に弱いです。

おお父さんよ、あなたがイエスの御名によって私たちの妹を癒して下さるよう祈ります。許可する。

さあ、妹さん。今は疑わないで。心を込めて信じて来ててください。主よ、キリストの御名によって私たちの妹を癒して下さいますように。彼女に勝利を与えてください、主よ。

来い 妹よ。聖書はこう言っています。“これらのしるしは信じる者たちに従うであろう。” イエスの御名によって彼女が癒されますように。

来なさい、姉さん。背中トラブルであなたは去ってしまったので、今喜びながら旅に出ることができます...?...

それが黄金律です。

ですから、私たちにできることであれば、どのような形でも喜んでお手伝いしたいと思っています。

どうか神が、今もいつまでも皆さんを祝福して下さいますように。

そして、これまでなされてきたすべてのことは、本当に優しく、麗しく行われました。私たちは心から深く感謝しています。

12 さて、私が海外にいる時は、いつも大変です。魔女や魔術師たちは、あなたを攻撃することを恐れないからです。

つい最近も、ある場所でのことですが、両側に十五人ほどの魔女たちがいて、こちらに向かって呪文を投げかけていました。そして、「嵐を呼んで、彼を吹き飛ばしてやる」と言ったのです。

信じるかどうかは皆さん次第ですが、その嵐は本当に来ました。その場所には約三万人の人々がいて、できる限り身を震わせていました。

クリスチャン実業家会のアーガンブライト兄弟、皆さんもご存じの兄弟ですが、彼は私の後ろに座っていました。彼は言いました。

「ブラナム兄弟……。」

私は言いました。

「ただ静かに座っていなさい。聖霊が私をここへ遣わされたのです。」

それが、私が聖霊にまず遣わされない限り、どこへも行かない理由です。そうすれば、私は主の御名によって来ることができると分かるからです。分かりますね。

私は言いました。

「あの方が私をここへ遣わされたのです。」

そして、そこにはとても大きな場所が造られていました。ちょうど二×四材のような木材に、キャンバスを打ちつけたような造りでした。その場所全体が、上下に持ち上がるように揺れていました。

午後二時ごろのことです。空はそれ以上ないほど晴れていたのに、その嵐

は三十分ほどでやって来たのです。

13 そして私はただ立ち止まり、こう言いました。

「これは通訳しなくて結構です。」

両側から来るその悪の力を感じました。彼らはそこに座り、切った羽根とハサミを持って、手を回していました。彼らがどうするか、皆さんご存じでしょう。

そして私は言いました。

「主なる神よ、天と地の創造主よ、私をここへ遣わされたのはあなたです。私があなたのために担っているこの働きについて、責任を負ってくださるのはあなたです。私は主イエスの御名によって、この嵐を叱りつけます。」

すると、その嵐はさっと分かれて後退し、雷鳴は遠ざかって行きました。そして二分もしないうちに、太陽が真上から輝き出したのです。

すると、何千もの人々が祭壇へ押し寄せて来ました。共産主義的な考えを持つ人々も、あらゆる人々もです。

そして、どのように……。私はここに立って、証を全部語ることはできません。なぜなら、それは私自身の集会で起こったことだからです。ほかの人たちが語る方がよいでしょう。

しかし、図書館ほどにも……。いや、百科事典ほどにもなるでしょう。私の小さな働きの中で、主イエスがなさったのを私が見てきたことだけでも、それほど多くの本が書けるのです。

では、トミー・オズボーン兄弟やオーラル・ロバーツ兄弟のような方々の働きにおいては、どれほどのことでしょうか。

それは偉大です。

私たちの主は偉大なお方です。

確かにそうです。

14 さて、この午後、聖書を少し読みたいと思います。ここにいくつか箇所を書き留めています。そこまで行ければですが。

それから、息子が私に言ったと思いますが、祈りのカードを何枚か配ったそ

れるなら、そうしないなら、私は詐欺師になるよ。もし私があなたを助けることができても助けられないなら、私はこの聖書の横に立つ資格はないでしょう。助けられない。私にできる唯一のことは、あなたに何かを気づかせることです…。キリストはあなたを癒し、病気になったときに元気づけるためにここにいるのです。

あなたは病気です。あなたは女性のトラブルに悩まされています。それは女性のトラブルです。そうだね。そうだから手を挙げて。私が推測しているわけではないことを皆さんに知っていただくために…。ちょっと待ってください。心に何かを置いて、神に何をしてほしいとしても、心の中で自分に祈ってください。そう、今心に何かあるんだ。あなたの夫よ。あなたの夫よ。神が彼の何が問題なのか教えてくれると思いますか？脳に何か異常がある。それは脳の動脈の硬化を引き起こします。それは本当です。そうだね。もし神があなたが誰であるかを私に教えてくれるなら、それはあなたに多くの信仰を与えるでしょうか？心から信じますか？ナンシー・ガレスピー、家に帰ってください。イエス・キリストがあなたとあなたの夫を癒し、あなたを元気にしてくださいませ。ハンカチも持って行きましょう。それは本当ですよ？道を進んでください。

103 さて、あなたは神を信じますか？ただ信仰を持ち、疑わないでください。

さて、私はここにいるこの偉大な教会に、これらの人々のために私と一緒に祈ってくれるかどうか尋ねたいと思います。それは誰かのママ、誰かのパパ、誰かの恋人、誰かの夫です。祈る。動き回らないで下さい。会議を台無しにしているだけです。本物をじっとして祈ってください。敬意を払ってくれてれば、10分以内に解雇されるだろう。

おいで お嬢さん。一言も言わずにただ祈ったら、信じる？主イエスよ、あなたがイエスの御名によって彼女を癒してくださるよう祈ります。

来い 兄貴。心を込めて信じろ。私たちの天の父は、イエス・キリストの名において、彼をよくして下さいます。アーメン。神のご加護がありますように、兄弟よ。[兄はブランナム兄弟に話しかける一編] ああ、それはただ…。それは私たちにとって少しも変わりません。さて、大丈夫です。

どうしたの分かってるけど、言う必要はないよ。もしそれが…言ったら助かる？助けにはならないよ。よし。しかし、とにかく、あなたがそこを去ったとき、あなたの心のトラブルはあなたを残しました。だから、ただ喜びながら道を進み、こう言いなさい。“主よ、ありがとう。”

104 さあ、父よ、主イエスの御名において、あなたが彼を癒してくださるよう祈り

分かりますか。私はあなたがた一人一人の霊を感じ取っているのです。

私はあなたがたを助けようとしているのです。本当に静かに、敬虔にしてください。

101 分かりました。もし主なる神が、あなたについて何かを私に告げてくださるなら——もし私がここへ来て……おそらくあなたは病気かもしれません。

そうでないかもしれません。しかし、もし病気であって、私が見ただあなたに手を置いて、「姉妹、あなたはよくなります」と言ったなら、あなたはそれを信じていることができるでしょう。なぜなら、それは真実だからです。

けれども、もし聖霊がここに立っておられるなら——もしこれが、この服を着てここに立っておられる主イエスであったなら、あなたが、「私を癒やしてください。主よ、私を癒やしてください」と言った時、主はこう言われるでしょう。

「わたしは、すでにそれをした。」しかし主は、以前ここにいられた時になされたようなことをなさるでしょう。井戸のそばの女になされたようなことを。

それによって、あなたに知らせるためです。それがどなたであるかを——。

主は、どのようにして彼女に分からせられましたか。

彼女の人生の中にあつたことを告げることによってです。

そうでしょうか、会衆の皆さん、初めて来られた皆さん。

主は、彼女の人生の中にあつたことを告げられたのです。

もし主が、シモン・ペテロになされたように、

あるいは聖書の中で誰かになされたように、

あなたの人生の中にあることを告げてくださるなら、

それはあなたに大きな信仰を与えるでしょう。

それは、あなたがた一人一人に、信じるための信仰を与えるでしょうか。

102 さて、それはここにありますが、黒いカーテンの後ろではなく、悪魔の華やかさではなく、聖書の言葉から、あなたと一緒にここプラットフォームにあります。少し動揺する神学かもしれませんが、それは聖書と同じです。もし君を助けら

うです。病の方々のために祈るつもりです。

もし私が皆さんのうちの誰一人として、もう二度と目にすることがなくても、もしこの人生で皆さんに二度と会うことがなくても、あの門で皆さんに会い、キリストの御前に立つために中へ入るその前に、神から来る幻は真実であり、現実であると申し上げます。

あの火と光の柱の中におられる主の御使いは——全能の神を私の裁き主として申し上げますが——確かにそこにおられます。それは真実です。皆さんに、それが真実であると知っていただくためです。

神は真実です。神が偽りであることはできません。偽りであって神であることはできないのです。神は本物でなければなりません。もし何かが偽りであるなら、それはサタンです。

しかし、あの光を、私は見ました。それを見つめました。そして私にとっては……。もし私が不敬虔なことを言っているようでしたら、どうか赦してください。しかし私にとって、それはイスラエルの子らに従っていた、あの同じ火の柱です。

なぜなら、それはイエスと呼ばれた一人の人の内に宿ったからです。その方は神の御子でした。そして、あの方が生きられた命が、今日、同じものによって再び現されているのです。

15 彼は言いました。「“私は神から来ました。私は神に行きます。”それは誰もが知っています。“私は神から来ました、そして私は神のところに行きます。”彼は言いました。“私は私です。”それは火の柱であり、茂みの中にいた天使でした。それは肉となり、私たちの間に住み、戻ってきて、今日も同じ形になっています。知ってたのか？

あなたは言います、“イエスはそうでした….” そうですね、私はイエスの中にいた神について話しています。パウロがダマスカスへ向かう途中、火の柱である光が彼を打ち倒しました。残りの者は誰もそれを見なかったが、パウロはそれを見た。それが彼の目をくらませるまでは、それはとても大変でした。そして彼は言った、「“主よ、あなたは誰ですか？”」

彼は言いました、“私はイエスです。”彼は元の神のもとに戻っていました。私にとって、それは今日も神であり、私たち教会における終わりの日の働きを終えています。

16 申命記32章11節を開きましょう。本文の背景として、少し読んでみたいと思います。そして、できれば祈りの列を行い、一時間以内に終えたいと思います。

[会衆の中の一人の女性によって預言が語られた。]

「まことに、主はあなたにしるしをお与えになった。あなたは、あなたを遣わされた方の解放のうちに、堅く立っていなければならない。そして、いつもあなたの周りには、主の覆う臨在がある。油注ぎはあなたと共にあり、あなたは突き破り、分け進むであろう。そして主の栄光は、わたしが……するすべての場所で、あなたと共にある。主はあなたを、この民に対するしるしとなるよう選ばれた。」

※一部聞き取り不明]

ああ、父なる神よ、私は心の中で、どれほどへりくだってこれを受け取ることでしよう。

主よ、私の足を導き、私の手を握ってください。

私が決して誰かのつまずきとなることはありませんように。むしろ、道に行くすべての旅人にとって、踏み石となることができますように。

主よ、どうかそれをお与えください。

私の人生の中で、あなたの御名やあなたの御業に影を落とすようなことを、決して何一つ行うことはありませんように。そして私は、あなたに仕えるために、自分にできるすべてを尽くします。

私の主である、あなたの御子イエス・キリストの御名によって、このことを感謝いたします。アーメン。

17 それは、私の心をどれほどへりくだらせることでしよう。

申命記32章11節です。

[さらに預言が語られる。]

アーメン。主の御名はほむべきかな。

[会衆の中から、別の預言が語られる。]

私たちのただ中で、主の御霊が働いておられることを、私たちはどれほど

家に帰りなさい。

それは終わりました。

神があなたを祝福してくださいますように。

99 もしあなたが自分の罪の中で死ぬなら、それは神の責任ではありません。

あなたは教会にどれほど忠実であるかもしれません。

しかし、罪人とは不信仰な者のことです。神を信じなさい。よろしいです。

さて、ここにいるこの人々は、病人に手を置いて祈るための祈りの列です。

あなたがたは、それでも信じますか。今、これは祈りのカードを持っていない人々に対してです。識別の流れは、あちらの祈りのカードを持っていない方々のところにあります。では、残りの方々も信じ始めなさい。

動き回らないでください。分かりますか。あなたがた一人一人は霊なのです。

あなたがた一人一人は霊です。そのことを知っていましたか。

もし霊でなければ、あなたは死んでいるでしょう。ですから、私が語りかけているのは、あなた自身というより、あなたの霊なのです。あなたの霊なのです。

100 こちらへ来てください、姉妹。あなたは、私が神のしもべであると信じますか。

私たちは互いに見知らぬ者です。お互いを知りません。

もしそれが正しいなら、バルコニーにいる会衆にも分かるように、手を上げてください。私たちは見知らぬ者で、これまで会ったことはありません。

ここに一つの光景があります。祈りの列の最初の人々が女性であったので、ここにヨハネの福音書四章があります。人生で初めて出会う、一人の男と一人の女です。もし、私たちの間におられるこれがキリストの御霊であるなら、

その方はキリストのわざをなさるでしょう。お願いです。動かないでください。今、あなたはそれを台無しにしまいました。ほかの人々を傷つけたのです。

神よ、助けてください。

スモールさん、神があなたのその胆のうの問題を癒やしてくださると信じますか。

それなら、立ち上がってください。

あなたは、自分で思っていたよりも信仰を持っていました。

私はその女性を知りません。

それは神の恵みでした。

もし私たちが互いに見知らぬ者であるなら、姉妹、このように手を振ってください。

私はあなたを知りませんね。

しかし、主があなたに告げられたことは真実ですか。

主が言われたことが真実なら、手を上げてください。

よろしい。

それなら信仰を持って、家に帰り、よくなりなさい。

もし信じることができるならです。

ここに座っているこの女性、腹部の問題を持っている方……腹部です。

はい、私が話しているのはエフィーさんです。

エフィー、立ち上がってください。

それがあなたの問題でしたか。

私はあなたを知りません。

もしそれが本当なら、手を上げてください。

私はあなたに生涯今まで一度も会ったことがありません。

天の神がそのことをご存じです。

主に感謝することでしょう。

**鷲がその巣を揺り動かし、**

**そのひなの上を舞いかけり、**

**その翼を広げて彼らを取り、**

**その翼に乗せて運ぶように。**

これは、それほど長い聖書朗読ではありません。しかし、それは主の御言葉です。

そこには十分なものがあります。おそらく神は、この箇所から、これからの二十分か三十分の間に、私たちに文脈を与えてくださるでしょう。そしてそれが、人々を目覚めさせ、主イエスのことを考えさせるものとなるでしょう。

18 ご存じのように、しばらく前から……。私は数年前、アブラハム・リンカーンの生涯についての物語を読みました。

ある男が牢獄に入れられていました。彼は連邦の罪に問われ、銃殺されることになっていました。すると、彼の良い友人が大統領アブラハム・リンカーンのところへ行きました。リンカーンは素晴らしいクリスチャンの人でした。

その友人は言いました。

「リンカーン大統領、あなたが善良な方であり、クリスチャンであることを私は知っています。この男は、連邦の起訴のもとで、軍の規則の一つを破ったことになっています。

彼は私の友人です。彼は、それをするつもりではありませんでした。確かに、それをしたことについては有罪です。しかし、故意にしたものではありません。

どうかお願いします。彼の命を救えるのは、あなたお一人だけです。どうか、彼の命をお助けいただけませんか。」

すると、リンカーン氏はその礼儀深さをもって……羽根ペンを取りました。その時、彼は正式な印を押せる自分の机にいなかったため、一枚の紙にこう書き記しました。

「私はこの男を赦免する。」

そして、アブラハム・リンカーンと自分の名を署名したのです。

19 この男の大切な友人は、できる限り急いで牢獄へ走って行き、言いました。

「ああ、友よ、君は自由だ。自由になったのだ。ここに、大統領の名前が書かれている。君は赦免されたのだ。」

しかしその男は言いました。

「私をからかわないでくれ。私はもう死ぬ覚悟ができているのだ。私は死刑を宣告されている。それなのに、君は一枚の紙切れを持って来て、私をからかおうとしている。もしその紙がアブラハム・リンカーンの赦免状であるなら、印章や何かで、もっと正式に飾られているはずだ。」

友人は言いました。

「君、この紙には大統領の名前があるのだ。君は赦免されたのだ。」

しかし、その男はそれに背を向け、耳を貸そうとしませんでした。

翌朝、夜が明けると、その男は銃殺隊の前で撃たれてしまいました。

さて、一方には、大統領からの赦免があります。そこには、「この男を殺してはならない」と書かれ、ある日に署名されていました。しかし、その翌日、その男は撃たれてしまったのです。

そこで、この件は連邦裁判所で審理されました。そして、アメリカ合衆国の連邦裁判所がその件を審理した時、裁判所の判断はこうでした。

「赦免は、それが赦免として受け取られない限り、赦免とはならない。」

20 そして、それが神の御言葉のあり方です。

あなたがそれを癒しとして受け取るなら、それはあなたにとって癒しです。

あなたがそれを赦免として受け取るなら、それはあなたにとって赦免です。

ここにあるすべての祝福は、神がそれを書かれた通りの方法であなたが受け取るなら、あなたのものなのです。

「鷲がその巣を揺り動かし、そのひなの上を舞いかけり、その翼に彼らを乗

それです。

それは何を生み出すのでしょうか。

神の御子の内にあつた時に行ったのと、同じわざを生み出すのです。

そして今、それは、まことの神の御子の恵みによって、

神の養子とされた息子たち、娘たちの内にあるのです。

98 そこにいるあなた、兄弟。

その心臓の問題から癒やされたいですか。

そこに座ったまま、神があなたをよくしてくださると信じますか。

あなたは見つめながら、不思議に思っていました。

すると突然、少し不思議な感覚が、あなたの上をずっと通ったのです。

その通りです。

私はあなたを知りませんね。

あなたも私を知らず、私もあなたを知りません。

もしそうなら、手を上げてください。

あなたの心臓の問題は去ったと信じますか。

手を振ってください。

よろしい。では、それは去りました。

あなたがたは信じますか。

ここに、ひとりの女性が座っています。

あの女性の上にある光が見えませんか。

彼女には胆のうの問題があります。

彼女はそれを逃してしまいそうです。

あなたは家に帰って、よくなることができます。

皆さんに一つお尋ねしたいのです。

あの女性は何に触れたのでしょうか。

ここに私の手があります。

私は覚えていません……。

彼女は集会に来たことがある人です。

さて、あなたがたはこう言うかもしれません。

「では、バルコニーの上にいる誰かはどうなのですか。

あるいは、こちらにいる人で、以前どこかの集会にいた人はどうなのですか。」

私は、あなたが誰であるかなど、決して分からないでしょう。

私に分かるのは、あなたがただこの集会に来ているということだけです。

そして、そこに彼女がいます。

彼女は何かに触れたのです。

では、何に——？

私は少し前に、あの火の柱について話しました。

分かりますか、それは……。

今、その写真を持っている方はどれくらいいますか。

この集会にもそれがありません。

それは火の柱のように見えるでしょう。

そうではありませんか。

そして今、その命は、何を生み出すのでしょうか。

私ではありません。

せて運ぶように……。」

私は何度も考えたことがあります。神はご自分の嗣業を鷺になぞらえられました。そして聖書の中で、神がご自身を鷺と呼んでおられることを見出します。あの方はエホバなる鷺です。では、どのようにしてそうなさるのでしょうか。

私は自然を愛する者です。ですから……私にとって最初の聖書は自然でした。自然の働き方をただ見つめるなら、そこに神を見いだすことができます。どこを見ても、心の中に神を持ってそれを見るなら、神を見ることができるのです。

さて、人々が輪廻転生などについて語る時、それは愚かなことです。そのようなことはあり得ません。

私たちは、一つの植物が死に、地の中へ入り、種が朽ち、そして再び生きるのを見るのです。それは復活です。そして、キリスト教全体は復活に基づいています。

私たちは、それが真実であることを見ることができます。死、埋葬、復活です。夏も冬も、すべての自然がそこにぴったりと調和しているのです。

21 私にとって最初の聖書は、木々がどのように枯れ、また芽が出て来るかを見ることでした。風がそれを倒しても、また立ち上がって来ることを見ることでした。小さな花が死に、また生きること、そうしたさまざまなものを見ることでした。

それによって私は、どこかに復活の力があるのだと知るようになったのです。

さて、木は継続する命を持っています。しかし私たちは、不死の命を持っています。木には最終的な終わりが来ます。しかし私たちには、それが決して来ることはありません。私たちは不死の命を持っているのです。

22 さて、この御言葉を讀んだ時、私は鷺について調べ始めました。鷺とは何でしょうか。調べてみると、鷺は非常に独特な鳥です。存在するどの鳥よりも高く飛ぶことができます。特別に造られた鳥なのです。鷺は、はるか高い岩場に巣を作ります。本当に独特な鳥です。また、もう一つの特徴は、その羽が非常にしっかりしていて、ほとんど……ペンチを使っても引き抜けないほどなのです。鷺は巨大な鳥で、最も大きな鳥の一つです。そして非常に独特な鳥ですが、それは特別な働きをするために、特別に造られているからです。

「鷺」という言葉は、「くちばしで裂くもの」という意味です。そして鷺は、くち

ばしで食べさせます。これは神の御言葉の非常に美しい型です。口から口へと養うのです。神がご自分の子どもたちを養われる姿です。

そして鷲は、高い所に巣を作ります。それには目的があります。すべてに意味があるのです。さて、鷲が大きく力強い翼を持っているなら、それは救い出すためです。そして鷲が行うもう一つの不思議なことは、若さを新たにすることです。鷲は長い時を経た後、ある過程を経て、まるで若い鷲のように戻るのです。自分自身を若く回復させるのです。若さを新たにすることです。

これは、教会、神の民のもう一つの型です。私たちはすっかり沈み込み、どこか古びて、活気を失ったようになりますことがあります。すると突然、聖霊が来られ、私たちを再び新たにしてくださるのです。神が、ご自分の教会の経験と若さを新たにし、新しい経験を与えてくださるのです。これが鷲の型なのです。

23 何年前か前、私はよく馬に乗っていました。牧場でのことです。私たちはコロラド州のトラブルサム川のあたりにいました。ヘレフォード協会が、そこにあるアラパホの牧草地や、山の上の方の牧草地で牛を放牧していたのです。

私たちはよく、牛をそこへ連れて行きました。そして秋になると、またその牛たちを探し出さなければなりません。国有林の中に入れておき、冬の間食べさせるための干し草は、低地の方で育てていたのです。

私は毎年、狩りのためにそこへ行っていました。今でもそうです。

私の友人と私は、町から来た人々がみな下の方へ行って、雌鹿や小鹿、若い雌牛、また低い所にいる、はぐれた年老いた雄のエルクなどを撃ち回った後で、奥へ入って行くのです。

私たちはいつも、人がなかなか入れないような、ずっと奥の高い場所へ行き、そこで野営しました。彼は東の分かれ道か西の分かれ道の一方を取り、私はもう一方を取ります。そして、お互いに再び会うまで、数日かかることもありました。

24 そして私は、ある年のことを決して忘れません。その年はまだ雪が降っていませんでした。狩猟の季節が始まる十月ごろのことでした。

山の中で雪が降る時というのは、十月でも、ある午後にはとても美しい天気だったかと思うと、一時間もたたないうちに雪が降り始めることがあります。それから雨が降って雪を溶かし、また太陽が出て来るのです。天気が次々と変わるのです。

見知らぬ方は、皆さん手を上げてください。

そこにいる方々で、私にとって見知らぬ方も、手を上げてください。

私は、ここに座っているジーン・ゴードと、そこにいるパット・タイラー以外、誰も知りません。

そして後ろに立っている私の息子——私が知っているのは、その人たちだけです。

そこに座っている女性、赤い帽子をかぶって、目をこすっている方、そこに座っているあなたです。

あなたは、イエスがあなたの祈りを聞かれたと信じますか。

副鼻腔の頭痛を癒やしてくださいと願った時、主が聞いてくださったと信じますか。

あなたは、主が聞いてくださったと信じますか。

あなたはそのことについて祈っていたのですね。

そうでしょうか。

もしそれが正しいなら、立ち上がってください。

それが真実なら、手を上げてください。

もし私があなたを知らず、あなたも私を知らないなら、もう片方の手も上げてください。

両手を上げてください。

奥様、あなたは以前、私のリバイバル集会に来たことがありますか。

けれども、私が言っているのは、私はあなたを知らないということです。

いいですね。

97 よろしいです。

さて、彼らは見なければなりませんでした。

そして、主なる神が、ただそれをお与えくださいますように……。

主よ、どうかお願いいたします。

この愛しい人々のために。

主よ、あなたは私がここにいる目的をご存じです。

私は祈ります。

たとえ彼らが二度と見る事が出来ないとしても、

主の来られる時が近いことを、彼らに分らせてください。

一見すると厳しく、彼らを揺さぶるように聞こえるこれらのメッセージが、

私が賢そうに振る舞うためでもなく、

自分自身のためでもなく、

あなたがそれに油を注ぎ、そう語らせてくださったからであることを、彼らに分らせてください。

主よ、それを証明してください。

私はあなたのために語りました。

主よ、今度は私のために語ってください。

私の言葉が真実であることを示してください。

それらはあなたから来たものだからです。

イエスの御名によって願います。

アーメン。

96 自分の召しを受け取りなさい。

あなたの目を逃してはいけません。

この祈りの列にいる方々の中で、私にとって見知らぬ方はどれくらいいますか。

しかし雪が降ると、エルクや鹿が動き出します。文明の騒音から離れて高い所にとどまっている、あの大きな獲物たちが、谷の方へ下りて来るのです。たいてい、見事な獲物を得るのは、そういう場所なのです。

25 その年は、まだ雪が来ていませんでした。私はずっと高い所にいました。馬は数マイル後ろに残し、十分に動ける場所と食べるための干し草があるようにして、そこにつないでおきました。そして私は、森林限界のあたりをぐるっと回りながら、奥の方を探していたのです。

その日の午後、山々を横切って嵐が吹き抜けて来ました。雷鳴がとどろき、稲妻がひらめいていました。私は一本の木の後ろに入り、嵐が過ぎ去るまで、その木の後ろに立っていました。森の中へ下りて行ったのです。

そこには、風で倒れた木々がありました。私はその倒木の陰に立ち、嵐が通り過ぎるのを待ちながら、そこに立って考えていました。ライフルは木に立てかけてありました。

やがて嵐が過ぎ去ると、私は神のことを思っていました。神は何と素晴らしいお方だろう、と。

嵐の間に冷たい風が吹き込み、常緑樹についた水の多くが凍っていました。つららのように垂れ下がっていたのです。

それから太陽が出て来ました。ずっと西の方、山の裂け目から太陽が少し顔をのぞかせているのが見えました。それはまるで、神の目のように見えました。

26 神はどこにでもおられます。

ただ神を探して見るなら、どこにでも神を見ることができます。神はそこにおられるのです。あなたはそれを見なければなりません。

あの方はここにもおられます。今、ここにおられます。

ただ周りを見回すなら、あなたはあの方を見るでしょう。

そして私がそこに立っていた時、その夕日を見つめ、両手を上げて言いました。

「ああ、偉大なるエホバなる神よ、あなたの御目は全地を歩き巡っています。」

ちょうどその時、雄のエルクの角笛のような鳴き声が聞こえました。嵐の中で群れからはぐれてしまったのです。そして、あの鋭い鳴き声を上げていました。すると、別の場所にいた群れがそれに答えるのが聞こえました。

山の斜面のずっと上の方では、年老いた灰色の狼が吠え始めました。下の谷の方では、そのつがいも答えました。

私は谷を越えて、山から山へ、分水嶺の向こうを見渡しました。そこには虹がありました。

ああ、どこを見ても、そこには神がおられたのです。

27 私の母はハーフインディアンです。彼女は居留地出身のチェロキー・インディアンで、彼女の母は年金を受け取っていました。私の回心後も、そのことは私の中から取り去られませんでした。森や野外には、私の愛する何かがあるのです。

あの年老いた狼が遠吠えし、そのつがいもそれに答えるのを聞いた時、涙が私の頬を流れ始めました。あの年老いた雄のエルクが、群れを求めて山の上で鳴き叫ぶのを聞きました。そして群れがそれに答えました。

私は虹を見つめて言いました。「ああ、またここにも神がおられる。」

あの方はアルファであり、オメガです。あの方はその色彩です。虹の中にある契約です。神はどこにでもおられます。ただ、周りを見回してあの方を探すなら。

28 私はあまりにも嬉しくなって、ただ両手を上げました。涙が頬を流れていました。そして、その木の周りをぐるぐる、ぐるぐる走り回ったのです。

私は本当に大いに楽しんでいました。私の周り三十マイルの範囲には、誰もいません。ただ飛び上がったり、下りたりしながら、声の限りに叫んでいました。

正直に言えば、もし誰かが私を見ていたなら、精神病院から誰かが抜け出して来たのだと思ったことでしょう。

しかし私は気にしませんでした。私は素晴らしい時を過ごしていたのです。私は私の神、主を礼拝していました。ほかの誰がどう思うかなど、私には何の違ひもありませんでした。

「わたしは、すでにそれをした。

わたしはあなたのそむきのために傷つけられた。

わたしの打たれた傷によって、あなたは癒やされたのだ。」

救いも癒やしも、すでに完成されたものです。

それを受け取るのは、あなたの信仰なのです。

さて、主はご自分がメシアであることを証明するために、何かをなさったでしょう。

しかし、これらのことは、私が何かのメシアであることを証明するものではありません。

私は、恵みによって救われた罪人です。

そして、神がどれほど私に油注がれたとしても、神はあなたにも油注がれなければなりません。

私だけでは、それは働かないのです。

それが働くためには、あなたが必要なのです。

聖霊がどれほど私の上に臨まれても、あなたの上にも臨まれなければなりません。

けれども、もし主が、私たちの弱さに同情することのできる大祭司であり、聖書が、主は「昨日も今日も、いつまでも変わることはない方です」と言っているなら、

主は同じように働かれるはずですよ。

主は、私たちの内におられるのです。

あなたはそれを信じますか。

95 さて、皆さん、そのまま席にいてください。

敬虔にして、祈っててください。

「みんながあなたに触れているのです。

なぜ、そのようなことを言われるのですか。」

主は言われました。

「しかし、わたしは弱くなったことを感じた。」

——これが正しい訳です。

「力がわたしから出て行った。」

そして、virtue とは力のことです。

それを知っている方はどれくらいいますか。

「力がわたしから出て行った。」

そして主は、群衆を見回されました。

ついに、その小さな女を見つけられたのです。

そして主は彼女に、あなたの長血は止まった、と告げられました。

なぜなら、彼女の信仰が彼女を癒やしたからです。

そうでしょうか。

聖書は、主が今まさに、私たちの弱さに同情することのできる大祭司である、と言っています。

初めて来られた方々、あなたがたはそれを信じますか。

94 さて、覚えておいてください。癒やしというものは——

もし主が、私にくださったこの服を着て、ここに立っておられたとしても、主はあなたを癒やすことはできません。

もしあなたがこの講壇に来て、

「主よ、私を癒やしてくださいますか。」

と言ったなら、主があなたに何と言われるか分かりますか。

ただ私は、素晴らしい時を過ごしていたのです。その木の周りを、ただぐるぐる、ぐるぐる回っていました。

そして立ち止まって、あの狼の声に耳を傾け、それを聞いて、また叫び、そしてまたその木の周りをぐるぐる、ぐるぐる回るのでした。

29 そして私は、何かを驚かせてしまいました。

そこには、小さな松リスがいました。ここオクラホマで、それがどんなものかご存じかどうか分かりませんが、本当に小さくて、騒がしいものです。これくらいの大きさです。森の中の青い制服を着た警官のようなものです。

とにかく、ものすごく騒ぎますが、実際には大したものではありません。

その小さなリスが切り株の上に飛び乗り、できる限り大きな声で、

「チャタ、チャタ、チャタ」

と鳴き始めました。

私は思いました。

「そんなに興奮する必要はないよ。私は主を礼拝しているのだ。もしそれが気に入らないなら、これを見ていなさい。」

そして私はまた、その木の周りをぐるぐる、ぐるぐる、できる限り勢いよく回りました。

そして言いました。

「何と素晴らしいことでしょう。あなたの創造主、私の神です。さあ、もう一度行こう！」

そう言って、またぐるぐる、ぐるぐる回ったのです。

すると私は、その小さなリスが小さな頭を横に傾けて、倒木の中をじっと見下ろしているのに気づきました。

30 どうやら、私がおそのリスを驚かせたのではなかったようです。何か別のものが、彼を興奮させていたのです。

私は思いました。

「私がおかしなことをしていると思わないでくれ。私は自分ではおかしなことをしているつもりはないのだから。そして、主が私を祝福してくださっていることを私は知っている。だから、お前も一緒に加わったらいい。」

それで、ふと目を向けると、嵐が一羽の大きな鷺を下へ押し下げているのです。その鷺は低い所へ追いやられていました。おそらく、食べ物を取っていたのでしょう。嵐の上へ舞い上がるだけの高さを得ることができず、嵐によって藪の中へ押し込まれてしまったのです。

そこに、その鷺が藪のあたりにいました。そして、それがあの小さなリスを興奮させていたのです。

リスはそれをじっと見つめながら、

「チャタ、チャタ、チャタ、チャタ」

と鳴いていました。まるで、その鷺を引き裂いてしまうつもりでいるかのようでした。もともと、彼は何かを引き裂けるほど大きくはありませんでした。

そのリスは切り株の上に立ち、小さなしっぽをぐるりと丸めて、

「チャタ、チャタ、チャタ。チャタ、チャタ、チャタ」

と鳴いていたのです。

私は思いました。

「まあ、そんなに興奮しなくてもいい。あれはお前を傷つけたりしない。」

すると、その大きな鷺が、すっと枝の上に飛び乗りました。

私は思いました。

「ああ神よ、あなたはあの狼の鳴き声の中にもおられます。あなたは、こちらの野生の呼び声の中にもおられます。あなたは夕日の中にもおられます。あなたは虹の中にもおられます。」

では、なぜあなたはこの鷺を私の前に置かれたのでしょうか。この鷺はここで何をしているのでしょうか。私は、この鷺の中にあなたを見ることができません。」

31 私はその鷺を見つめました。そして言いました……。彼を見ました。大きな

では、何を待っているのでしょうか。

それは、すでに期限を大きく過ぎています。

ノアの日のように、神の長い忍耐によって保たれているのです。

選ばれた者たちのために、時間が延ばされているのです。

すでに過ぎています。

けれども神は、ご自分の教会が整えられるのを待っておられます。

神は、あなたと私を待っておられるのです。

どうか主が祝福をお与えくださいますように。

あなたがたは祈ってください。

93 ひとりの女が、主の衣の裾に触れた時のことです。

今、そこにいる女性たちの中にも……

これを聖書の物語のように受け取ってください。

今、信じている女性たち、

神を信じるだけの信仰が自分にはあると信じ、

神が語られたことは何であれ真実であると信じる方々。

ある小さな女が、主の衣の端に触れました。

そして彼女がその衣に触れた時、主は振り返って言われました。

「だれがわたしに触れたのか。

だれがわたしに触れたのか。」

すると、皆がそれを否定しました。

「いや、みんながあなたに触れています。」

ペテロは主をたしなめて言いました。

です。

メシアが、聖霊のかたちで降りて来られるのです。

91 メシアがヨルダンで聖霊をもってバプテスマを受けられた時、

最初に何をし始められましたか。主は何をなさいましたか。

病人を癒やし始められたのです。では、主が彼らから離れて行かれる前の、最後のしるしは何でしたか。そのしるしは何でしたか。

まさに、そのしるしでした。ペンテコステのリバイバルは何をもたらしましたか。病人の癒やし、奇跡、そしてしるしです。では、最後のものは何でしょうか。ここにそれがあるのです。祈りのカードを持っていない病気の方は、そこにどれくらいおられますか。手を上げてください。信仰を持って、信じなさい。

ある人は言います。「それはどういうことですか、ブラナム兄弟。」

神の御霊、約束をなさるそのお方は、その約束において失敗することはできないのです。

92 祈りのカードを持っていない方々、

私はあなたがたに背を向けます。

あなたがたは祈ってください。

もし神が神であられるなら、

もし神の答えが真実であるなら、

そして私がこの数週間、あなたがたに真理を語ってきたのなら——

これは、主の現れが近いことのしるしなのです。

文明を持った、正常な心を持つ人なら誰でも、

私たちが何かの終わりに来ていることを知っています。

文明は、もうこれ以上立っていることはできません。

それは揺れ動き、震えているのです。

灰色がかった目をしていました。

彼はあの松リスのことは、それほど気にしていませんでした。彼は私を見ていたのです。その大きな目が、私をじっと見ているのが分かりました。

私は思いました。

「そうだ、確かにこの鷲の中にも神を見ることができる。なぜなら、彼は恐れていないからだ。彼には、恐れていない何かがある。」

私は言いました。

「彼が恐れているかどうか、試してみよう。」

私は言いました。

「おい、君。私が君を撃つこともできるんだよ、分かっているかい。これは私のライフルだ。私は君を撃つことができるんだ。」

彼はただ、そんなふうに見上げていました。

私は、彼が自分の翼の感触を確かめているのに気づき続けていました。私は言いました。

「今、分かった。それが理由なのだ。君が恐れていないのは、神が君に二つの翼を与えてくださったからだ。そして君は、私がこのライフルを手取る前に、自分があの林の中へ飛び込めることを、よくよく知っているのだ。」

私は思いました。

「もし君が、危険から逃れるために神から与えられた翼を信頼できるなら、私たちのただ中に、神から与えられた聖霊を持っている教会は、なおさら、さまざまなものから離れ、それから抜け出すことができるはずではないか。」

私は彼を見ていました。彼がどのように、その翼の感触を確かめているかを。

そのかぎり……。

ある時、誰かが私に言いました。

「ブラナム兄弟、間違いを犯すのではないかと恐れないのですか。」

いいえ、恐れませんが。私の周りにあの何かを感じていただける限り、大丈夫です。それでよいのです。あの方がそこにおられる限り、それをなさっているのはあの方なのです。

32 そして私は、しばらくの間その驚を見ていました。彼は、私が彼を愛していて、傷つけるつもりがないことを分かったのでしょう。ですから、彼は私を恐れていませんでした。

ただ、あの、

「チャタ、チャタ、チャタ。チャタ、チャタ、チャタ」

という声に、うんざりしてきたのです。彼はそれに疲れてしまいました。

そこで彼は、大きく一跳びし、翼を二、三度ばさっと動かしました。その時、私は、なぜ主が私の叫びの中に割り込んで来られたのか分かりました。

その大きな驚は、それ以上、翼をばたつかせませんでした。ただ、自分の翼をどう据えればよいかを知っているかのようにでした。そして風が吹き込むたびに、彼はさらに高く乗って行くのです。風が来ると、さらに高く舞い上がるのです。

私はそこに立って、彼が小さな点のようになるまで見つめていました。

そして私は言いました。

「ああ神よ、これです。」

彼は、あの「チャタ、チャタ、チャタ」に疲れたのです。

大切なのは、この教会からあの教会へ走り回ることで、こちらに加わり、あちらに加わることもありません。ただ、主の聖霊の力の中で、自分の翼をどう据えるかを知ることなのです。

聖霊が吹き入って来られる時、その風に乗って行きなさい。乗って行きなさい。どこまでも、どこまでも。

「奇跡の時代は過ぎ去った」

「聖霊などというものはない」

「あなたがたは全部間違っている」

それは、望む者なら誰でも持つことのできる経験なのです。

教派としてのペンテコステが、ペンテコステの祝福を独占しているわけではありません。カトリックの人々でも、それを持つことができます。

あなたがペンテコステであるのは、あなたの心の中にペンテコステの祝福を持っているからなのです。

90 それで、アブラハムは呼び出された者でした。そして、この御使いはアブラハムのところに座っておられました。その御使いが去った後、アブラハムはその方を「主」、エロヒムと呼んだのです。エロヒムが、大いなるエホバなる神であったことを知っている方は、どれくらいいますか。確かに、主なる神です。

そしてその方は、天幕に背を向けて座っておられました。

その方がアブラハムに何と言われたか、見てください。

その方は見知らぬ方で、それまでそこに来たことはありませんでした。

それなのに言われたのです。

「アブラハム、あなたの妻サラはどこにいますか。」

どうしてその方は、アブラハムに妻がいることを知っておられたのでしょうか。

そして、どうしてその妻の名がサラであることを知っておられたのでしょうか。

さて、聖書は、アブラハムがその方に、サラはその方の後ろの天幕の中にいると告げた、と言っています。その方の後ろの天幕の中です。その方は言われました。「アブラハム、わたしは命の時にしたがって、あなたを訪れよう。

わたしがあなたに約束したこの子を、あなたに与える。」

するとサラは、声に出してではなく、心の内で笑いました。

そして、その御使いは天幕に背を向けたまま、言われたのです。

「なぜサラは笑ったのか。」分かりますか。

イエスは、それが終わりの時の直前に、異邦人の間で起こると言われたの

あの説教者たちが言ったこととは、まったく違います。

彼女は言いました。「私は、あなたが預言者であると見ます。」

さて、よく見てください。聞いてください。

「私たちサマリア人は知っています。私たちは教えられています。

メシアが来られる時には、その方がこれらのことをなさると、私たちは知っています。」それはメシアのしるしだったのでしょか。そうでしたか。

「メシアが来られる時、その方はこれらのことをなさると、私たちは知っています。けれども、あなたはどなたですか。」

イエスは言われました。「あなたと話しているわたしが、その者です。」

彼女は町へ走って行き、人々に言いました。「来て、見てください。

私がしたことをみな言い当てた人がいます。この方こそ、まさにメシアではありませんか。」しかし、主はそれを異邦人には一度もなさいませんでした。

では、主はそれを異邦人に約束されたのでしょうか。

なぜでしょうか。私たちには、ユダヤ人やサマリア人たちが持っていたのと同じように、二千年にわたる訓練があるからです。

メシアを待ち望む訓練です。

89 さて、イエスは言われました。「ロトの日、ソドムの日にあったように、人の子の来る時にも、そのようである。」今、よく見てください。

ソドムの日には、知識人たちの間にリバイバルがありました。

ロトと共にあったのです。現代で言えば、ビリー・グラハムのような人がそこへ下って行き、福音を宣べ伝えました。そして彼らを盲目にしたのです。

しかし、何が起こったかを見てください。アブラハムは、選び出された教会でした。ペンテコステ的であり、呼び出され、この世のものから分離された者でした。さて、メソジスト教会の中にもペンテコステの人々はいます。

バプテスト教会の中にもペンテコステの人々はいます。

ペンテコステとは教派ではありません。

「神の癒しなど存在しない」

そうした「チャタ、チャタ」という声から離れて行きなさい。ただ、その上を越えて行きなさい。聖霊が吹き入って来られるままに、その風に乗って遠くへ進みなさい。

そのまま進み続けなさい。ずっと高く、その上へ、その声がかき立てられなくなるところまで行くのです。

33 まあ、神が鷲を造られたのです。

さて、もし鷹が鷲について行こうとしたなら、空中でばらばらになってしまうでしょう。カラスがついて行こうとすれば、羽が抜け落ちてしまうでしょう。鷲は特別に造られた鳥なのです。

神は、ご自分の鷲たちを、ご自分の預言者たちになぞらえられました。預言者は高く、高い領域へと乗って行き、はるか遠くを見渡すことができるのです。

さて、もし鷲に、そこまで上って行くことのできる大きな力強い翼があっても、その目はその翼に見合うものでなければ、そこへ上った時には盲目になってしまいます。

それが、鷹が鷲になろうとしても、あまり高く上がると、どうせ何も見えなくなる理由です。ですから、上へ登っても何の役にも立ちません。分かりますね。鷲は特別に造られた鳥なのです。

そしてクリスチャンも、特別に造られた人なのです。まさにその通りです。

すべてがそこにあるとあなたに告げる何かを持っていないなら、教会へ行っても意味がありません。それは、神があなたのためになさる特別なものなのです。

その鷲は、あなたの目には見えなくなるほど高く上ることができます。それでも、地上で動くものなら何でも見ることができます。どんなに小さなものでも見えるのです。それほど、その目は優れているのです。

34 少し前——三、四年前のことです——私の幼い娘と私は、シンシナティの動物園を歩いていました。ある土曜日の午後、私は子どもたちをそこへ連れて行き、いろいろなものを見せていたのです。そして、小さなサラと私は下の方へ歩いて行きました……。その時、彼女はまだ本当に小さな女の子で、三歳くらいでした。

私たちが歩いて回っていると、大きな鷲が檻の中にいました。

私は昔から、動物が檻に入れられているのを見るのが嫌いでした。どうしてか分かりませんが、カナリアが檻に入っているのを見るのも嫌なのです。もちろん、皆さんのインコやそういうものを悪く言っているのではありません。ただ、何か檻に閉じ込められているのを見るのが好きではないのです。

自由のない宗教の中に閉じ込められるというのが、どんなことか私は知っています。私は……自由でいたいのです。

35 それは、カナリアに良い羽と良い翼を持たせるために、ありったけのビタミンを与えておきながら、その鳥を檻の中に閉じ込めておくようなものです。それで何の役に立つのでしょうか。

説教者たちを神学校などへ送り、教育し、あらゆることを学ばせておきながら、その後で、

「奇跡の時代は過ぎ去った。そんなものは存在しない」

と言って彼らを檻に閉じ込めるなら、それで何の役に立つのでしょうか。彼らを教育して、何の益があるのでしょうか。

兄弟よ、私は自由なものが好きです。飛ぶことができ、自分を働かせることのできるものが好きです。人を自由にしてくれる信仰が好きなのです。

36 私は、この大きな鷲に目を留めました。人々はちょうどその鷲を捕まえて、檻の中に入れたところでした。そして私は、「これは今まで見た中で、最も悲しい光景だ」と思いました。

その大きな鷲は、私が起き上がって見た時、床の上に横たわっていました。大きな翼を広げたまま、頭や首のまわり、そして翼の先の羽は、すっかり打ち落とされていました。

私はその鷲を見つめました。彼は檻の中を這うように進み、向こう側をじっと見ました。すると、こちらへ向かって来たのです。そして、その頭と翼をばたつかせながら、檻にぶつかりました。羽が飛び散り、彼は後ろへ倒れました。

それでも、また起き上がりました。今度はこちらへ少し下がり、上を見上げました。そして、できる限りの力で飛び上がり、翼と頭を檻に打ちつけ、また倒れました。彼はそこに横たわり、大きな目を動かしながら、上を見上げていました。

者は、あなたの夫ではありません。」

さて、この女は、そのような状態にありながら——私たちの見方では、娼婦、評判の悪い女でありながら——彼女が聖書について何を知っていたか、聞いてください。彼女は、説教者たちがしたように、主をベルゼブルだとか、占い師だとか、悪魔だとか呼びませんでした。そして、誰でも知っているように、占いは悪魔から来るものです。では、占い師とは何でしょうか。

それは、正しいものが歪められたものなのです。

87 悪魔は、何も創造することはできません。

もし彼が創造者であるなら、自分の世界を造ることができるはずですが。

しかし彼にできるのは、神が創造されたものを歪めることです。

分かりますか。

ここでは、いろいろな方がいる集会ですから、少し率直に聞こえるかもしれません。

一人の男が妻をめとり、その妻と夫婦として生きるなら、その床は汚れたものではありません。

しかし、同じ行為を別の女とするなら、その人は堕ちてしまうのです。

分かりますね。

それは、正しいものを歪めることなのです。

私が何を言っているか、お分かりでしょう。

サタンは歪めるのです。

占い師とは、神の先見者が歪められたものです。

神の領域にあるべきものが、悪魔の領域へと歪められたものなのです。

88 そして注目してください。彼女は主をそのようには呼びませんでした。

彼女は言いました。「先生、私はあなたを預言者と見ます。」

彼女がそう言ったことを知っている方は、どれくらいいますか。

「あなたはまだ五十歳にもなっていないのに、アブラハムを見たと言うのですか。」主は言われました。

「アブラハムがある前から、わたしはあるのです。」その通りです。

ですから彼らは言いました。

「あなたはまだ五十歳にもなっていないではありませんか。」

85 そして彼女は、井戸のところにおりました。

イエスはそこに、このような光景の中に座っておられました。そして言われました。「わたしに飲ませてください。」その時代には隔てがありました。

昔、南部に黒人と白人との隔てがあったようなものです。

彼女は言いました。

「ユダヤ人であるあなたが、サマリヤの女である私に頼むことは、普通ではありません。」主は言われました。「女よ——今、私が言っていることをよく聞いてください。聞き逃してしまいますから——女よ、もしあなたが、自分が誰と話しているのかを知っていたなら、あなたのほうからわたしに飲ませてくださいと求めたでしょう。そうすれば、わたしはあなたに、ここへ汲みに来なくてもよい水を与えたのです。」

彼女は言いました。「井戸は深く、あなたは汲むものを持っておられません。」

そして会話は続いていきました。主は何をしておられたのでしょうか。彼女の霊に触れておられたのです。それは、私が今あなたがたにしていることと同じです。あなたがたの注意を保とうとしているのです。

86 主は言われました。「わたしに飲ませてください。」そして会話は続いていき、ついに主は、彼女の問題が何であるかを見つけられました。それが何だったか、知っている方はどれくらいいますか。彼女は姦淫の中に生きていたのです。

それで主は言われました。「女よ、行って、あなたの夫を呼んで、ここへ来なさい。」彼女は言いました。「私には夫はいません。」

主は言われました。「その通りです。」

あなたには五人の夫がありました。そして今あなたが一緒に暮らしている

ああ、私は思いました。

「これは、人が見ることのできる最も悲しい光景の一つだ」と。

彼は天の鳥なのです。彼は天を舞うために生まれてきたのです。それなのに、人間の策略と仕掛けによって、檻の中に閉じ込められてしまった。彼は飛べないのです。

彼は天の鳥です。地面のことなど、ほとんど知らないのです。彼は天に生きるべき鳥なのです。

そこに横たわりながら、彼は上を見上げていました。本来自分がいるべき場所を、自分の心が慕い求めている場所を、見上げていたのです。けれども、彼とその場所との間には、鉄格子があったのです。

37 私は、それこそ悲しい光景だと思っていました。

けれども、ある時、私はそれ以上に悲しいものを見たのです。

それは、神がご自分のかたちに創造された人間が、教派や、神の癒しを信じないようなものの中に閉じ込められている姿でした。

自由であるはずなのに、自由になれない場所に閉じ込められているのです。

彼らの内には、天から生まれ、神から遣わされた霊があるのに、その霊が外へ出られないように、閉じ込められているのです。

街を歩く男たちや女たちを見ます。

不道德な服装をし、酒場に入り、低いところに閉じ込められている。

本当は、神の息子、神の娘として自由であるべき人たちなのです。

それなのに、彼らは自由になろうとして、まるで何かに頭を打ちつけるように、必死にもがいているのです。

38 ああ、神よ。もし私に力があつたなら、あるいは権威があつたなら、私はあの年老いた驚を買い取って、放してやったでしょう。

彼が行きたい所へ、自由に行かせてやったでしょう。

あれを檻の中に閉じ込めておくなど、本当に恐ろしいことです。

けれども、神の息子たちを取り上げて、ある場所の中に閉じ込めてしまうことは、どれほど恐ろしいことでしょうか。

実際、彼らの霊は外へ出て行って、何かをしたいと願っているのです。

それなのに、誰かが言うのです。

「神の癒しなどというものはない。」

「聖霊の力などというものはない。」

「そんなものは存在しない。」

そうして彼らを檻の中に入れてしまうのです。

兄弟よ、申し上げます。

自由というものは、確かにあるのです。

39 ある時、ひとりの人が年老いたカラスを捕まえて、縛りつけてしまいました。

そのカラスが、とうもろこし畑に入っていたからです。

すると、ほかの鳥たちが上を飛びながら言いました。

「さあ、ジョニー・クロウ、南へ行こう。南へ行こう。冬が来るぞ。」

けれども、そのカラスはすっかり痩せ細ってしまい、ほとんど歩くこともできませんでした。

ある日、ひとりの善良な人が通りかかって言いました。

「あのかわいそうな年老いたカラスよ。」

そして、そのカラスを解き放ってやったのです。

すると、ほかのカラスたちがやって来て言いました。

「さあ、ジョニー・クロウ、南へ行こう。」

しかし彼は、あまりにも長い間縛られていたので、ただ歩き回りながらこう言うだけでした。

いいえ、決してありません。

しかし、主が去られる前に――

さて、主はその女に言われました。

この女をよく見てください。

私たちが娼婦と呼ぶその女です。

彼女は、アメリカ合衆国の説教者の半分よりも、神についてよく知っていました。

その通りです。

彼らはあまりにも知的になりすぎていて、御霊の超自然のための余地を持っていないのです。

彼らの多くは、立派なクリスチャンであり、超自然を信じる兄弟たちです。

けれども、その中には、まだにわとりのままでいる者たちもいるのです。

83 それから、その女はやって来ました。その小さな女の人が……。

主はそこへ下って行かれ、弟子たちを行かせ、そこに腰を下ろされました。

なぜなら、サマリヤ人たちは待ち望んでいたからです。

サマリヤ人たちがメシアを待ち望んでいたことを知っている方は、どれくらいいますか。それを信じますか。では、ヨハネの福音書四章を引用しましょう。

さて、ひとりの女が井戸へ出て来ました。サマリヤの女です。

主は言われました……[祈りの列を呼び続ける]

84 さて、注目してください。その日、主が井戸のところへ行って腰を下ろされた時、弟子たちは食べ物を買いに町へ行っていました。彼らがいないうちに、美しい姿の女が、水がめを頭に載せて歩いて来ました。そして彼女は、水を汲むために、つるべを下ろしました。すると、誰かがこう言うのを聞いたのです。

「わたしに飲ませてください。」彼女がそちらを見ると、そこにはひとりのユダヤ人がいました。主はまだ三十歳ほどでした。けれども聖書は、主が五十歳くらいに見えたことを示しています。それを知っている方はどれくらいいますか。

今、私はできるだけ、あなたがたの注意をつないでいるだけです。  
祈りの列の準備が整い、皆がその列に入る用意ができるまでです。

81 さて、私たちはメシアを待ち望んでいませんでした。

ですから、何も受けなかったのです。

それで、主を待ち望んでいた人々に対して、主は現れました。

今、それを信じる方はどれくらいいますか。

さて、彼らが自分たちのメシアを拒んだ後——

覚えておいてください。

主はユダヤ人のところへ行かれました。

主はどのようなしるしを示されましたか。

彼らの心の秘密を知っておられたのです。

では、正統派の教会は主について何と言いましたか。

「彼はベルゼブルだ。占い師だ。」

イエスは言われました。

「そのことについては、あなたがたを赦しましょう。

しかし、いつか聖霊が来て同じことをなされる時、それに逆らって語るなら、この世でも、来たるべき世でも、決して赦されることはありません。」

そうでしょうか。

82 さて、見てください。

主はそのしるしをユダヤ人たちの前で行われました。

また、サマリヤ人たちにも行われました。

けれども、異邦人には一度も行われませんでした。

その一例さえ、あなたは見つけることができません。

「私にはできない。私にはできない。」

彼は、自分がもう自由にされていることを知らなかったのです。

今日の間も、それと同じです。

兄弟よ、あなたはイエス・キリストがあなたを自由にしてくださったことを知らないのです。

そこから出ましょう!

どこかへ進み出ましょう!

神は私たちを自由にしてくださったのです。

飢え死にすることはできません。

神は、空いっぱい、ペンテコステの祝福と、まだ汲み尽くされていない御 goodness——神のいつくしみの資源を備えておられます。

そこへ進みましょう!

「だれでも望む者は来なさい。来て、いのちの水を、ただで飲みなさい。」

40 驚は、高い岩の上に巣を作ります。

それは教会のようです。

イエス・キリストの教会とは、丘の上に置かれて、光を放つ教会です。

高いところにあるのです。

高い志を持っているのです。

高い期待を持つべきなのです。

そうです、教会は高い期待を持つべきです。

なぜなら、私たちは神が何かをしてくださることを期待しているからです。

もしあなたが今日の午後、ここへ来て、

「まあ、行ってみよう。祈りの列に入れたら、それでいいか。」

「まあ、もし主が私に、私は癒やされたと言ってお知らせするなら……もし主が私に知らせてくださるなら……」

などと言うなら、ああ、そんな期待の仕方をしてはいけません。

「でも、もし主がそれをしてくださらなければ、私は何も受け取れない。」

あなたの期待は、あまりにも小さいのです。

今日の午後、教会に来るなら、もしあなたが病んでいるなら、こう言いなさい。

「私は癒やされて家に帰ることを期待している。

それが起こるまで、ここを去らない。」

もしあなたが聖霊を受けていないなら、こう言いなさい。

「私はこの場所で朽ち果てるか、それとも聖霊を受けるかだ。

私は聖霊の民のただ中に来た。

御霊のおられる所に来た。

受けるまで、私はここにとどまる。」

バディ・ロビンソンが、とうもろこし畑に出て行った時のようでありなさい。

彼は言いました。

「主よ、もしあなたが私に聖霊を与えてくださらないなら、あなたが地上に戻って来られる時、ここに横たわっているバディ・ロビンソンの骨の山を見つけることになるでしょう。」

それが、あるべき姿なのです。

まさにその通りです。

私たちは、あまりにも行き当たりばつりに受け止めすぎているのです。

41 ある時、ひとりの人が神を求めていました。

そして、彼が「私は救われた」と言うたびに、悪魔は言うのです。

H——H番号一番の方、手を上げてください。祈りのカード番号一番、手を上げて……あなたですか——あなたがその方ですか、姉妹。H番号一番ですね。

こちらへ来ててください。H番号二番……

79 ……イスラエルの失われた羊たち。そうでしょうか。さて、地上には幾つの民族の流れがありますか。三つです。ハム、セム、ヤペテの民です。

それが、ユダヤ人、異邦人、そしてサマリヤ人でした。

サマリヤ人は、半分ユダヤ人で、半分異邦人です。お気づきになりましたか。

イエスがペンテコステの日に、ペテロに鍵をお与えになったことを知っている方は、どれくらいいますか。その通りです。ペテロはエルサレムで、ユダヤ人に対して御国の鍵を開いたのです。そうでしょうか。

ピリポはサマリヤへ下って行き、彼らにバプテスマを授けました。

けれども、聖霊はまだ彼らの上に臨みませんでした。なぜなら、ペテロが鍵を持っていたからです。ペテロが下って来て、彼らの上に手を置くと、サマリヤ人たちは聖霊を受けたのです。そうでしょうか。コルネリオの家では、だれが呼ばれましたか。ペテロです。それ以後、そのことについては、もう何も言われていません。すべての世代に、その……すべての民族に福音が開かれたのです。

ハム、セム、ヤペテの民にです。

80 さて、よく注意して見てください。

私は、あなたがたに見ていただきたいのです。

その当時、メシアを待ち望んでいた人々は、二つの種類、二つの民でした。

それは誰でしたか。

ユダヤ人とサマリヤ人でした。

しかし異邦人である私たち、アングロ・サクソンの者たちは、背中にこん棒を背負い、偶像を拝んでいたのです。

私たちは、メシアなど待ち望んではいませんでした。

では、もう一度だけ歌いましょう。

私がタルサで、この大きな群れの歌声を聞くことができるように。

私は主を愛します、私は主を愛します。

主がまず私を愛してくださったから。

そして私の救いを買って取ってください。

カルバリーで。

さあ、響き渡らせましょう。

メッセージは終わりました。

ただ主を礼拝しましょう。

私は主を愛します、私は主を愛します。

主がまず私を愛してくださったから。

そして私の救いを買って取ってください。

カルバリーの木の上で。

さあ、今、頭を少し垂れましょう。

そして、群れが静まっていく中で、手を上げましょう。

私は主を愛します、私は主を愛します。

主よ、近づいてください。

主がまず私を愛してくださったから。

そして私の救いを買って取ってください。

カルバリーの木の上で。

78 [ブラナム兄弟がハミングを始める]何番でしたか。百番ですか、五十番ですか。五十番ですか。祈りのカード番号一番を持っている方、手を上げてください。もし立てるなら、立ち上がってください。祈りのカード番号一番です。

「いや、おまえは救われていない。」

ある日、その人は一本の杭を打ち込みました。

そして言いました。

「サタンよ、これからは、私はこの杭を指さす。

ここが、私が神の求めておられる条件に応じた場所なのだ。」

今日の午後、あなたも自分の席のすぐそばに、その杭を打ち込みなさい。

そして、こう言いなさい。

「サタンよ、ここが、すべての疑いを置いていく場所だ。

そして私は今日の午後、主と共に飛び立つのだ。

私は、主が私にできると言ってくださったことを、そのまま受け取る。」

もし、あなたがそれを信じるならです。

42 この年老いた鷺は、巣を作る準備ができると、岩の高い所へと上って行きます。

そして、高い所に巣を作るのです。

なぜでしょうか。

それは、自分の小さな子たちを守りたいからです。

神も同じようになさいます。

もしあなたが神にお任せするなら、神はご自分の教会をある場所へと引き上げてくださいます。

そして、あなたを地上のハゲタカどもから離れた場所へ置いてくださるのです。

確かに、神はそうしてくださいます。

それに比べて、にわとりはどれほど違っているのでしょうか。

にわとりも鳥ではあります。

けれども、彼は納屋の庭のどこかに、地面の上に巣を作ります。

そこは、イタチや蛇や、その他あらゆるものが、その雛たちに近づくことのできる場所です。

彼は、天のことを何も知りません。

それでも鳥ではあります。

もしかすると、教派的な兄弟かもしれません。

けれども、彼は地上にいるのです。

彼は、天上のことを何も知りません。

高く飛ぶことを知らないのです。

青く美しい空の、ずっと高い所にあるものを、何も知らないのです。

43 この年老いた母鷲は、巣を作る時――

私は何度も、その様子を見てきました。

彼女は外へ出て行って、大きな枝を取ってきます。

それを岩の間に置き、自分の大きなくちばしでこちらへ引き寄せ、しっかり固定します。

そして、いばらのつるを取ってきて、それを周りに巻きつけるのです。

巣の内側は、ほとんどがいばらで作られています。

それは、彼女がそこまで運んできた、棒のような大きな枝々を、しっかり結び合わせるためです。

けれども、彼女はその巣をしっかりと固定します。

どんな嵐が来ても、それを吹き飛ばすことができないようにするのです。

44 私は嬉しく思います。

「この岩の上に、わたしの教会を建てよう。

そして、黄泉の門もこれに打ち勝つことはできない。」

あらゆるしるしと不思議を現してこられました。

それなのに彼らは、時に、にわたりのように座り込んでしまいます。

ああ、神よ、

彼らに、自分たちが鷲であることを見せてください。

彼らは飛ぶことができるのです。

ただ信仰を取り、それによって飛び去ることができるのです。

「そんなことは起こらない。」

「それには何の意味もない。」

そういう古い言葉から離れさせてください。

ああ、神よ、

今日の午後、ここにいる一人一人を祝福してくださるよう祈ります。

そして、一人一人をエホバの翼の下に、近くとどまらせてください。

父よ、どうかお与えください。

私は彼らを、あなたの御子、イエスの御名によって、あなたにお捧げします。

アーメン。

77 主なる神が何をなさるか、主にお任せすることです。

さて、これから祈りの列を持ちます。

そうすれば、ここから出て行くことができます……

今夜は教会に行ってください。

神があなたがたを祝福してくださいますように。

あなたがたは主を愛していますか。

アーメン。

75 では、祈りの言葉のために、頭を垂れましょう。

今、どれほどの方が覚えられたいと願い、こう言いたいでしょうか。

「主よ、私を憐れんでください。

私に驚の思いを与えてください。

驚の願いを与えてください。

驚の命を与えてください。

主よ、信じる者にはすべてのことが可能である、あなたの青い大空を飛ばせてください。

私の内に信仰を造ってください。

私の翼を成長させてください。

翼のまわりの筋肉を強くしてください。

ついには、本当にイエスを見ることができるようになってください。」

ああ、神があなたがたを祝福してくださいますように。

76 天の父よ、

ああ、主よ、このメッセージは批判的に聞こえたかもしれません。

けれども、そのつもりではありませんでした。

それはただ、私にできる小さな方法で、人々に知らせたかっただけなのです。

主よ、私は信じています。

あなたは彼らに近づき、教会を揺り動かそうとしておられるのだと。

あなたのこの大いなる嗣業、

この大いなるペンテコステの教会、

偉大な教会であるその教会の周りに、あなたはあらゆる賜物を揺り動か

し、

どのような岩でしょうか。

それは、霊的な啓示です。

「人々は、人の子であるわたしを、だれだと言っていますか。」

「ある人々はエリヤだと言い、ある人々はモーセだと言っています。」

「では、あなたがたはどうなのか。」

ペテロは言いました。

「あなたはキリスト、生ける神の御子です。」

すると主は言われました。

「バルヨナ・シモン、あなたは幸いです。

血肉がこれをあなたに現したのではありません。

あなたはこれを神学校で学んだのではない。

だれかに教えられて知ったのでもない。

天におられるわたしの父が、これをあなたに啓示されたのです。

この岩の上に、わたしの教会を建てよう。

そして、黄泉の門もこれに打ち勝つことはできない。」

人生の嵐も、それを揺り動かすことは決してできません。

45 それが、主がご自分を驚だと言われた理由です。

主は巣をお造りになったのです。

それから、年老いた母驚は、雛たちが生まれる準備をする時、外へ出て行って、手に入るものを何でも集めてきます。

柔らかい葉を集めます。

そして、その大きなくちばしで、それらを隅のほうへ押し込みます。

また、周りにある、とげのあるものを整えて、雛たちに刺さらないようにする

のです。

それから外へ出て、子羊や、あるいはうさぎか何かを捕まえてきます。

その肉を食べ、それから毛や毛皮を取ってきて、巣の中に塗りつけるように敷き詰めます。

ああ、彼女は雛たちが来るために、本当に美しく整えるのです。

エホバなる鷲も、同じようになさいます。

主はすべてを整えてくださるのです。

ああ、本当に、神の御国に新しい赤ちゃんが生まれる時、その人は自分では歩けると思っています。

けれども、いつもあちこちにぶつかり、転んだり、走り回ったりしているのです。

それでも、その人は喜んでいます。

なぜなら、その人は巣の中にいるからです。

その巣は羽毛で柔らかく整えられているのです。

だから、倒れても痛くありません。

そして、それが母鷲——エホバなる鷲のなさり方なのです。

これから生まれてくるご自分の小さな子たちのために、主はその巣を本当に柔らかく、心地よく整えてくださるのです。

46 やがて、卵がかえります。

小さな鷲たちが生まれてきます。

すると、母鷲と父鷲は下へ降りて行き、雛たちがかなり大きくなるまで、しっかり餌を与えます。

そして、雛たちがある程度の大きさになると——

今度は母鷲が、その雛たちが決してにわたりのようにならないように、はっきりと確かめようとするのです。

すると母は、良い言葉を言ってくれました。

「息子よ、それで気分が悪くならないなら、何の役にも立たないのよ。」

この御言葉の説教も、それと同じです。

もしそれが、あなたをしっかりと気分悪くさせるほどでなければ、

あなたの霊的な胃袋が働き始めるほどでなければ、

それはあなたに何の益にもならないのです。

その通りです。

御言葉は、あなたを自由にします。

まことに自由にするのです。

束縛を断ち切ってくれます。

あなたはそれを信じますか。

教会には、聖霊によるリバイバルが必要です。

家の大掃除が必要なのです。

彼らは鷲なのです。

彼らに、にわたりの餌を与えてはいけません。

彼らは鷲なのです。

彼らを、飛ぶか死ぬかというところへ連れ出しなさい。

それだけです。

そして神は、ご自分の嗣業を見守ってくださいます。

神は決して遠くにおられる方ではありません。

あなたを引き上げるために、いつも近くにおられるのです。

あなたはそれを信じますか。

分かっています、兄弟よ。

これは耳に痛いことです。

気分が悪くなるようなことです。

73 私の年老いた南部の母は、よく私にこういうことをしてくれました。

土曜日の夜になると、私たち子どもたちは皆やって来ました。

大きな杉のたらいがあって、母はそこに水を入れ、一番小さい子からお風呂に入れていきました。

私は十人きょうだいの末っ子でした。

ですから私は、同じたらいの同じお湯で、最後に入ります。

少しだけ温め直してもらって。

それから母は私を取って――

家は本当に貧しかったので、母は古い肉の皮を取り、それを煮出して脂を取っていました。

ラードを買う余裕がなかったのです。

それで母は、その脂を取って、コーンブレッドに入れました。

そして私たちは、黒目豆と、かぶの葉の煮物と、コーンブレッドを食べていたのです。

74 そして私たちは……アレルギーのようなものもありました。

それで母は、毎週土曜日の夜になると、私たちにひまし油を飲ませたのです。

私は今でも、あの匂いを嗅ぐことさえ耐えられません。

母のところへ行く時、私は鼻をつまみながら言いました。

「お母さん、やめて。やめて。やめて。

僕には、とても我慢できないよ。」

その通りです。

彼女は、自分の子たちが地に縛られたものになることを望みません。

彼らは鷺なのです。

そして彼女は、彼らが鷺であることを知っているのです。

エホバなる鷺も、同じようになさいます。

主は、私たちがにわとりになることを望んでおられません。

納屋の庭を歩き回るにわとりになることを、望んでおられないのです。

主は、私たちが鷺となり、青い空の高みにいることを望んでおられます。

私たちの本性は、そこにあるべきものです。

自由であるその高い所にいるべきものなのです。

「御子が自由にした者は、まことに自由なのです。」

主は、ご自分の子たちがそこにいることを望んでおられるのです。

47 それで、数日たつと――私は何度もその様子を見てきました――

巣をかき回す時が来る数日前に、年老いた母鷺は、その巣のそばに上がって行くのです。

私は何日も、暖かな日差しの中で横になり、それを見つめて、赤ん坊のように泣いたことがあります。

あの大きな母鷺を見るのです。

鷺は大きな鳥です。

母鷺は父鷺よりも大きいのです。

中には、翼を広げると、端から端まで十四フィートにもなるものがあります。

母鷺はそこへ上がり、巣の上をあちらこちらと歩き回ります。

そして、小さな子鷺たちのところへ行きます。

彼女は、その大きな翼を広げて、叫ぶのです。

すると時には、小さな鷲たちは仰向けに倒れてしまいます。

母鷲は、それを望んでいるのです。

それこそ、彼女がさせたいことなのです。

すると、彼らは起き上がります。

そして、また母鷲は叫びます。

なぜでしょうか。

彼女は、自分の声を彼らに覚えさせているのです。

「わたしの羊は、わたしの声を知っている。」

彼女は、叫ぶ時が来た時に、それが何であるかを子鷲たちに知っていてほしいのです。

だから、叫ぶのです。

ああ、なんということでしょう。

「私の声の一つ一つの響きを、しっかり聞き取りなさい」と、彼女は言っているのです。

「なぜなら、そこには多くの腐肉をあさる鳥たちがいるからです。

あなたたちには、自分が鷲であることを知っていてほしい。

鷲の声を知っていてほしいのです。」

アーメン。ハレルヤ。

「鷲の声がどのようなものか、知っていてほしいのです。」

それから、彼女はその大きな翼を広げて言うのです。

「さあ、ここを見なさい。

これから、あなたたちに初めての単独飛行をさせようとしているのです。

神がその大きな翼を広げ、ご自身の力を現し、

ご自分が「昨日も今日も、いつまでも変わることはない方」であることを示される時、鷲はこう言うのです。「はい、主よ。それこそ、私が求めているものです。

私はそのために戦っています。私はそこへ向かっています。」

確かにそうです。主は、昨日も今日も、いつまでも変わることはない方なのです。

72 まあ、時間はどこへ行ってしまったのでしょうか。

私は今、本当に説教したい気持ちです。

ああ、ペンテコステの教会に必要なのは、清められることです。

洗い流されることです。

こすり落とされることです。

聖別されることです。

皆さん、あなたがたはこの世の者ではありません。

ほかの人々を型にして、自分をそれに合わせてはいけません。

映画スターのようになろうとしてはいけません。

あなたは神の娘なのです。

あなたは神の息子なのです。

マット・ディロンや、誰かのようになろうとしてはいけません。

ピーボディ・アーニーとか、何という名前であれ、そういう人たちのようになろうとしてはいけません。

この世のものを愛してはいけません。

もしあなたがこの世や、この世にあるものを愛するなら、神の愛はあなたの内にさえありません。

けれども、あなたがたから何かを刈り取らなければならないのです。

兄弟よ、申し上げます。

ペンテコステの教会には、講壇から座席に至るまで、清めが必要なのです。

まさにその通りです。

すべての重荷を捨て去ることで。

リバイバルが起こらないのも、驚くことではありません。

ハゲタカの食べ物を食べているからです。

祈禱会に行く代わりに、夜、家にいて、お気に入りのテレビ番組を見ている。

女性たちは、そういう古い……そのような服装をしている。

男性たちは、付き合いだからと言って少し酒を飲む。

そして互いに、汚れた冗談や、そういうことを言い合っている。

あなたがたは、いったい何を考えているのですか。

神は、そのようなものが入り混じった混乱の中に、手を差し伸べることなどできません。

71 あなたがたは、この国で一番大きな教会を持っているかもしれません。

これまでにないほど多くのお金を持っているかもしれません。

けれども、それは少しも関係ありません。

あなたがたは、自分たちで「より知的な人々」と呼ぶような集まりと付き合い合っているかもしれません。より上等な服を着ているかもしれません。

しかし、兄弟よ、神が求めておられるのは、清い心と清い手なのです。

神は、清められた教会を求めておられます。

その時、神はご自身を現すことがおできになるのです。

けれどもその前に、まず私がどれほど大きいかを見てほしいのです。」

ああ、なんと美しいことでしょう。

時には、病が私たちが仰向けに倒すことがあるかもしれません。

あるいは、何か別のものが私たちが倒すこともあるでしょう。

けれどもその時、私たちは上を見上げることができます。

そして、エホバの二つの大きな翼——旧約と新約を仰ぎ見て、こう言うのです。

「主よ、あなたはなんと偉大な方でしょう。

主よ、あなたはなんと偉大な方でしょう。」

48 ああ、母鷲はそれを子たちに見せるのが好きなのです。

「ここを見なさい。

私がどれほど強いかを見なさい。」

彼女は叫びます。

「これが私の声なのです。」

それなのに、どうして説教者が、あの鷲は毎日、叫ぶたびに同じ声で叫ぶわけではない、などと言えるでしょうか。

もちろん、主は、

「昨日も今日も、いつまでも変わることはない方です。」

旧約は言いました。

「わたしはエホバである。

わたしは紅海を開いた。

わたしはヘブルの子らを燃える炉の中から連れ出した。

神の御子をよみがえらせたのは、わたしである。」

ハレルヤ。

「ペンテコステの日に聖霊を遣わしたのは、わたしである。」

その大きな翼を通して見るのです。

あなたはそれを見るのが好きではありませんか。

それは、あなたの心をわくわくさせないでしょうか。

その小さな鷺たちは言うのです。

「ああ、お母さん、私たちは本当にあなたを信頼しています。

あなたは力強く、大きなお方です。」

49 ある夜、外へ出て、太陽系を見上げてごらんください。

少し前、私はパロマー山へ連れて行かれました。

そして、そこで望遠鏡を通して見ると、一億二千万年もの光の広がりを見ることができたのです。

それがいったい何マイルになるのか、計算してみてください。

光はどれほどの速さで進むのでしょうか。

一億二千万年もの光の空間——

そして、その向こうにも、なお月々があり、星々があり、世界々々があったのです。

「主よ、あなたはなんと偉大な方でしょう。

主よ、あなたはなんと偉大な方でしょう。」

50 小さな鷺たちは、あたりを見回し始めます。

「主よ、あなたはなんと偉大な方でしょう。」

ここに一輪の花があります。

それは枯れて、地の中へ入りました。

確かにそうです。

あなたは最初から鷺なのです。

翼を羽ばたかせなさい。」

69 母鷺は上のほうを旋回していました。

「あなたは、そこにいるけれど、私の子の一羽のように見えますよ。」

すると、その小さな子は足で立ち上がり、四、五回ぴよんぴよん跳ねました。

まるで、小さな手が翼を打ち合わせているようでした。

すると、気がつくと、彼の足は地面から離れていたのです。

けれども、その小さな鷺が何をしたか分かりますか。

その小さな鷺は、納屋の庭の真ん中にある柱の上に、ちょこんと座ってしまっただけです。

しかも、大きなペンテコステ教派のど真ん中です。

するとどうでしょう。

母鷺がもう一度、飛んで回りました。

彼女はその子を見ました。

スラックスをはき、髪を短く切り、顔には化粧をしていました。

そして言いました。

「愛しい子よ、あなたはペンテコステの鷺というより、ペンテコステのハゲタカのように見えます。

それでは、もう少し自分を洗い清めなければなりません。

そうでなければ、私はあなたを連れて行くことさえできません。」

その通りです。

70 私は、あなたがたの気持ちを傷つけないのではありません。

その声を聞いた時、彼は見上げました。

その声は、なんとも心地よく響きました。

彼の本性は驚だったのです。

彼の本性は――

「イエス・キリストは昨日も今日も、いつまでも変わることのない方です。」

「アーメン！」

彼は叫び返しました。

「世を愛してはいけません。世にあるものを愛してはいけません。もしそれを愛するなら、神の愛はあなたの内にありません。」

「アーメン。」

彼は言いました。

「それは良い響きです。」

「私がもう一度こちらへ戻って来る時、愛しい子よ、あなたは跳び上がればよいのです。」

あなたがしなければならないことは、ただ信仰の小さな翼を羽ばたかせることだけです。

それがあなたを運んでくれます。」

「お母さん、どうしたらここから出られるのですか。」

「ただ翼を羽ばたかせなさい。」

それだけです。

あなたはそのまま出て来られます。

自分の信仰を取り、それに踏み出さなさい。

羽ばたき始めなさい。

なぜなら、あなたは初めから驚なのです。

けれども、見なさい。

また戻って来るのです。

「主よ、あなたはなんと偉大な方でしょう。」

ここに、がんにむしばまれた、かわいそうな年老いた男がいます。

まるで影のようになっています。

けれども、その人のために祈りがささげられます。

すると次に見る時には、その人は血色のよい、たくましい男になっているのです。

「主よ、あなたはなんと偉大な方でしょう。」

主よ、あなたはなんと偉大な方でしょう。」

通りにいる、かわいそうな年老いた女の人を見てください。

犬にさえ見られるにふさわしくないような姿です。

けれども、神の力が一度その人の心を捕らえるなら、彼女は叫ぶでしょう。

「主よ、あなたはなんと偉大な方でしょう。」

彼女は、すべての重荷と、容易にからみつ়く罪を捨て去ります。

そして気がつくと、聖徒のような姿の人になっているのです。

彼女は、福音トラクトを小脇に抱えて外へ出て行き、何かをしているのです。

あの角にいる密造酒売り、あの汚れた男にも、神の偉大さを一度見上げさせてごらんください。

彼がウイスキーを売るのをやめ、飲むことをやめ、たばこや葉巻を吸うのをやめ、嘘をつくことなどもやめるのを見ていなさい。

そして彼は、手に聖書を持って通りに出て行き、神の栄光を証しするようになるのです。

「主よ、あなたはなんと偉大な方でしょう。」

神が一度、あなたの上に新約と旧約を広げてくださるなら、

そのページを通して見てごらんください。

それが何であるかを見てごらんください。

あなたはそこから叫ぶ声を聞くでしょう。

「昨日も今日も、いつまでも変わることはない方です。

わたしが彼らにしたことを、あなたにもする。

わたしは同じである。

わたしはエホバである。

わたしは変わらない。」

今、私は本当に信仰に満たされた気持ちです。

ああ、本当に。

それが真理であることを、私はどれほどよく知っていることでしょう。

51 さて、母鷲は、その小さな鷲たちがにわとりになることを決して望みません。

そうならないように、固く決意しているのです。

それで、母鷲が次に何をするか分かりますか。

巣の上を行ったり来たり歩き回り、大きな翼を広げた後で、こう言うのです。

「ここを見なさい、愛しい子よ。

私がどれほど大きいかを見なさい。

いいですか、あなたは私を信頼しなければなりません。

私はあなたを、私を信頼しなければならぬ場所へ連れて行こうとしているのです。」

すると、まあ、ほかの者たちはみな周りを見回していました。

彼らは皆、あちらの場所へ走って行きます。

雌鷲が、見るからに汚らしいものを引っかき出すと、彼らはそこへ走って行って、それを食べるのです。

ううむ。

「さあ、来なさい。来なさい。

私たちと一緒にになりなさい。」

けれども、彼は分離された者でした。

はい、その通りです。

彼は、そのようなものを少しも欲しがりませんでした。

それは彼には正しく見えませんでした。

正しい匂いもしませんでした。

そこには正しい雰囲気もありませんでした。

彼は、それを少しも好まなかったのです。

彼は言いました。

「いやだ。いやだ。」

68 そしてある日、年老いた母鷲が、その子を探しに来ました。

私は、主が私のために来てくださったことを、本当に嬉しく思います。

母鷲は納屋の庭の上を飛びました。

下を見下ろすと、そこに自分の小さな子がいるのを見つけたのです。

そして叫びました。

「愛しい子よ、あなたはにわとりではありません。

あなたは私のものです。」

雌鷄は言いました。

「ああ、いらっしやい、かわいい子。

今夜は大きなパーティーがあるのよ。

それから、私たちは……」

けれども、彼はそんなものを少しも欲しがりませんでした。

彼は歩き回りながら、こう思っていました。

「ここでは、私はなんとも変わった者だな。」

66 そして私は一つ申し上げます、兄弟よ。

人が神の子となるために生まれているなら、古い信条や教派は、決してその人を満足させることはできません。

いいえ、決してできません。

この世のもの——

バスケットボールの試合、パーティー、インチキなゲーム、そして今日の現代の教会が行っている、そういう類いの娯楽——

それらがあるから、驚くには及びません。

「神はどこにおられるのか。」

彼らは神を悲しませ、神を自分たちから遠ざけてしまったのです。

まさにその通りです。

はい、その通りです。

にわとりは、そういうものを好みます。

けれども、鷲は好みません。

それは鷲の食物ではないのです。

67 彼はそこを歩き回っていました。

今日の午後、神が同じようにして、病んでいる人々をここに送られたのではないと、どうして分かるでしょうか。

あなたを、医者かもうどうにもできないような場所へ置かれたのかもしれない。

あなたは言うでしょう。

「ブラナム兄弟、私はクリスチャンです。」

分かっています。

「私は聖霊も受けています。

それなのに、ここで苦しんでいるのです。」

けれども、どうして分かるでしょうか。

エホバが、あなたにその翼を通して見上げさせ、ご自分がどれほど偉大なお方であるかを見せようとしておられるだけではないと。

「わたしがどれほど偉大であるかを見なさい。

わたしは、あなたがわたしを信頼しなければならないようなことを、あなたのためにしようとしている。」

そこなのです。

「けれどもその前に、あなたが何に信頼しているのかを知ってほしいのです。

わたしの大きな翼が見えますか。」

52 それから数日たつと、その母鷲が何をするか分かりますか。

その寝床が柔らかく整えられているかぎり、小さな鷲たちはそこを離れたがらないのです。

その通りです。

それで、母鷲は何をするか分かりますか。

彼女は中へ入り、大きなくちばしで、そこに敷いてあった毛皮を一つ残

らず引き裂き、巣の外へ放り出してしまおうのです。

彼女は、その子たちがこの世に慣れてしまわないように、固く決意しているのです。

その通りです。

神も、時には同じことをなさいます。

ああ、あなたがたは大きなもの、立派なもの、派手なものばかりを考えています。

そのようなものを求めてはいけません。

なぜなら、あなたはペンテコステから百万マイルも離れているからです。

ペンテコステの人々は、楽なものを求めたりはしませんでした。

彼らは自分たちの持っているものを売り、貧しい人々に与え、ただキリストと共に出て行ったのです。

それなのに今日では、霊的であるためには、キャデラックの車列を持っていなければならないかのようです。

いったい何が起こったのでしょうか。

どこかで、何かが間違っているのです。

53 主に従う、世に軽んじられた少数の者たちと共に、私はその道を歩ませてください。

私はイエスと共に歩み始めました。

主よ、どのような状況の中でも、私を最後まで導いてください。

人々は新生を恐れているのです。

そこが問題なのです。

彼らは、もう一度生まれることを恐れているのです。

だれでも知っていることですが、どんな誕生であっても——それがどこであろうと関係ありません——誕生というものは、きれいごとではありません。

だいたい、そんなものです。

一度の孵化の中に、一羽くらいはそういうのが出てくる。

だいたい、そういうふうにかかるものです。

本当です。

そこにいた彼は、変わった姿の小さな子でした。

彼には、雌鶏の「コッコツ」という鳴き声が理解できませんでした。

あの年老いた雌鶏は、肥だめや庭の中で、

「今夜は親睦夕食会がありますよ。

これもやりますよ、あれもやりますよ。」

というように、

「コッコツ、コッコツ。

奇跡の時代は過ぎ去りました。

神の癒しなどというものはありません。

コッコツ、コッコツ、コッコツ。」

と言っているのです。

そして、古びたインチキな集まりやゲーム、肌をむき出しにした服装、テレビや、そういったくだらないものと一緒に、その汚れたものを食べているのです。

けれども、その小さな子は驚でした。

それは彼には合いませんでした。

そのにおいを嗅ぐだけで、吐き気がするほどでした。

「いやあ、私には、とてもそんなことはできない。」

彼は歩き回っていました。

ああ、本当に、彼は変わった姿の小さな子でした。

度始めさせてくれるのです。

「たとえ私が倒れても、たとえ失敗しても、

主よ、どうか私を立ち上がらせ、もう一度挑戦させてください。」

もう一度進むのです。

神はあなたを、すぐにまた引き上げてくださいます。

あなたをそこまで連れて行き、もう一度振り落としてくださるのです。

自分でバランスを取ろうとしなさい。

そして、ただ進み続けなさい。

飛び方を覚えるまで、羽ばたき続けるのです。

ああ、本当に。

かわいそうな年老いたにわとりは、そのようなことを何も知りません。

何一つ知りません。

なぜなら、彼は一度もそこへ上ったことがないからです。

彼の先祖のだれも、そこへ上ったことがありません。

彼が知っているのは、教会に加わって、納屋の庭に座り込むことだけです。

それ以上のことを、彼はあまり知らないのです。

65 ある時、ひとりの男が雌鶏に卵を抱かせようとしていました。

けれども、十分な数の卵が見つかりませんでした。

そこで彼は、鷲の巣を見つけ、そこへ登って行って、鷲の卵を一つ取ってきました。

そして、それを雌鶏の下に入れたのです。

やがて、その一群の雛たちがかえると、その鷲は、ほかのひよこたちとは違って、実に変わった姿の小さな子でした。

それが豚小屋の中であっても、わらの山の中であっても、ピンク色に飾られた病院の部屋であっても、誕生には混乱が伴うものです。

そして人々は、その混乱に巻き込まれたいくないのです。

汚れたくないのです。

けれども、私は申し上げます。

私は、自分の側の都合で神にお会いしたいのではありません。

私は、神の側の水準で、新生に出会いたいのです。

たとえ泣かなければならなくても、叫ばなければならなくても、異言を語らなければならなくても、何をしなければならぬとしても、私は構いません。

近所の人たちが私のことをどれほど噂しようとも、私は構いません。

どうか、私を新しく生まれさせてください。

どのような状態になろうとも、私は構わないのです。

54 もし評判を全部失わなければならないとしても――

そもそも私には、失うほどの評判などありません。

それは、私が手放さなくてよかったものの一つです。

私には名声も評判もありませんでした。

最初から、ただの山育ちの田舎者だったのです。

ですから、私には何もありませんでした。

けれども、それが何であっても構いません。

私は何でも失う用意があります。

神の御国のために、愚か者になる用意があるのです。

あなたが私を「ホーリー・ローラー」と呼ぼうが、

「心霊主義者」と呼ぼうが、

「悪魔」と呼ぼうが、  
「人の心を読む者」と呼ぼうが、  
人々が何と言おうと、私は構いません。  
私はイエスが欲しいのです。  
それが私の第一の目的です。  
それがどのような水準であろうと、私は構いません。  
私は、主の水準で主にお会いしたいのです。  
自分が正しいと思う水準ではありません。  
だれかが正しいと言う水準でもありません。  
神が正しいと言われる水準に立ちたいのです。  
その通りです。  
もし主が、  
「昨日も今日も、いつまでも変わることはない方です」  
と言われたのなら、私はその水準で主を見たいのです。  
たとえ私が、何本もの柱を相手に説教しなければならないとしても、  
ソーダクラッカーを食べ、谷川の水を飲まなければならないとしても、  
それでも私は福音を望みます。  
私は、キリストが来てくださるその水準で、キリストを求めているのです。  
55 彼女は巣の中に入り、その柔らかいものを全部外へ投げ捨ててしまいま  
す。  
すると、小さな鷺たちが座ろうとするたびに、いばらの上に座ることになるの  
です。  
少し刺さるのです。

すると、その小さな鷺たちは飛び始めます。  
母鷺は叫びます。  
「翼を羽ばたかせなさい、子どもたち。  
あなたの小さな信仰を、ただ上下に羽ばたかせ続けなさい。  
今はもう、地面にぶつからないほど高い所にいるのです。」  
そして、母鷺が次に何をするか分かりますか。  
彼女はすっと横へ飛び出して、彼らを見守るのです。  
彼女はその周りをゆったりと旋回します。  
そしてそこにいる子鷺たちは、まさにペンテコステのリバイバルのようです。  
あちらこちらへひっくり返り、互いに重なり合い、できる限り必死に羽ばたい  
ているのです。  
でも、彼らは気にしません。  
なぜなら、外で見守っている母鷺に、絶対的な信頼を置いているからです。  
教会も、どのようにあるべきでしょうか。  
64 もし、その小さな鷺の一羽がバランスを崩すなら、母鷺はその大きな翼で  
さっと舞い降り、その子をすくい上げ、再び恵みの中へと担ぎ上げるのです。  
——これはバプテストの教えではありません。聖書です。  
そうして、その子をまた上へ連れ戻します。  
そして、もう一度振り落として、新しく始めさせるのです。  
アーメン。  
その鷺たちは、母鷺に信頼を持っています。  
母鷺が必ず助けてくれる、もう一度担ぎ上げてくれるという、絶対的な信  
頼を持っているのです。  
鷺の翼に乗せて担ぎ上げ、そこまで連れて行き、また振り落として、もう一

すると、年老いた母鷲は翼を上げ、岩から飛び立ちます。

さあ、彼女は行きます。

舞い上がり、舞い上がり、舞い上がり、舞い上がって、

ついには、青い空のはるか高くまで上って行きます。

その小さな子たちは、今まで一度もそこへ行ったことがありません。

ああ、彼らは本当に素晴らしい時を過ごしているのです。

63 気がつく、母鷲は何をするか分かりますか。

彼女はひっくり返って、その子鷲たちを一羽残らず振り落とすのです。

彼らは鷲です。

飛び方を知るべきなのです。

まさにその通りです。

彼女は彼らを、自分自身で飛ばなければならないところへ振り落とします。

さて、その小さな子たちの中には――

母鷲が叫びます。

「さあ、子どもたち。

あなたたちは鷲なのです。

飛びなさい！」

あなたが、

「まあ、私はこの教会に属していますから。

でも、それについてはよく分かりません。」

などと言っているかぎり、あなたは決して飛ぶことはありません。

あなたは一度、空中で振り落とされる必要があるのです。

それが何かと言えば――

悪魔に……彼らがそこにいる限り……

「昨晚、救われたのですか。」

「はい、そうです。救われました。」

「ああ、それは本当にうれしいことですね。」

けれども、あなたがその命に生き始めると、すぐに人々は言い出します。

「ホーリー・ローラーだ。」

「ああ、あなたはあのグループの人なんですね。」

分かりますか。

主は、時々あなたが少し刺されることを許されるのです。

なぜなら、主はあなたがこの世に慣れてしまうことを望んでおられないからです。

分かりますね。

母鷲は、自分の子どもたちが決してにわとりになることを望みません。

彼女は、その子たちが巣から出て行くことを望んでいるのです。

たとえ彼らが岩の中にいようと、どこにいようと、彼女には彼らのために、もっと良いものがあるのです。

神も、教会のためにもっと良いものを持っておられます。

ただ腰を落ち着けて、

「私はペンテコステ派です。」

などと言っていてはいけません。

56 ある時、ある人が言いました。

アーカンソーのほうにいた年老いた男性です。

彼は癒やされていました。

翌日、彼は松葉杖を持って歩き回っていました。

彼は長年、通りで鉛筆を売っていた人でした。

その彼が、大きな看板を掲げて歩き回っていたのです。

「イエスが私のところに来てくださってから、これはもう必要ありません。」

そうして歩き回っていました。

その夜、リトルロックのロビンソン記念講堂で、彼は会衆の中に立っていました。

ちょうどこんなふうなんです。

そして言いました。

「ちょっと待ってください、ブラナム兄弟。」

私は説教していました。

彼は言いました。

「ちょっと待ってください。」

そしてこう言ったのです。

「あなたが説教する時、分かりますか、あなたはまるでナザレン派の人のように説教します。

それから、ここにいる人々の多くはペンテコステ派のようです。

そして今、誰かがあなたはバプテストだと私に言いました。

私には分かりません。」

私は言いました。

「ああ、それは簡単です。

私はペンテコステ派ナザレン・バプテストなのです。」

あなたがたは鷺なのです。

鷺の食物を取らなければならないのです。

62 そして母鷺はそこに座り、小さな古い羽をすべて打ち落としているのです。

なぜなら、もしそうしなければ――

もし彼らに、飛ぶために必要な羽だけが十分に残っていなければ、母鷺は彼らを連れて行きません。

その小さな赤ちゃん羽が全部吹き飛ばされるまでは、連れて行かないのです。

それから母鷺はそこへやって来て、叫びます。

その時、彼女は彼らに経験を与える準備ができています。

彼女は、十四フィートもある大きな翼を、このように広げます。

すると小さな鷺たちは身を乗り出し、よじ登って行きます。

母鷺はその時、彼らに語りかけています。

なぜなら、彼らはすでに彼女の声を聞いてきたからです。

彼らは、彼女を信頼することを知っているのです。

母鷺は言うのです。

「さあ、子どもたち。

これからあなたたちを、初めての飛行に連れて行きますよ。」

一羽一羽が近寄って、自分の小さな足で母鷺の翼にしがみつきます。

そして、小さなくちばしをその羽の一つに当てるのです。

ああ、その羽は抜けません。

その翼の羽の力は、五十羽の鷺を支えることができるほどなのです。

小さな鷺はその羽にしっかりつかまります。

61 母鷲が何をしますか分かりますか。

彼女は巣の上に立ち、その大きな翼を広げて、子鷲たちをあおぎ始めるのです。

ああ、あなたは飛行機の後ろに立ったことがないかもしれません。そうすれば分かるでしょう。

その激しい風が、小さな鷲たちの羽の間を吹き抜け始めると、抜けかかった羽はあちらこちらへ飛んで行くのです。

私は申し上げます。

今日の教会には、巣を揺り動かすことが必要です。

力強く吹きつける風が必要なのです。

それによって、ペンテコステの教会からこの世のものがすべて取り除かれ、私たちがひとりで飛べるようになるためです。

私たちに必要なのは、もう一度、昔ながらの福音、聖霊による、神から生まれ、神に遣わされたリバイバルです。

まさにその通りです。

私たちに新しい大統領が必要なわけではありません。

もう大統領はいます。立派な方です。

町の新しい市長が必要なわけではありません。

それが何であれ、それは彼らの務めです。

けれども、私たちに必要なのは、福音を宣べ伝える牧師たちです。

そして、教会をもう一度ペンテコステ(聖霊降臨の時)へ連れ戻すことです。

もう一度、鷲の経験へと連れ戻すことです。

それこそ、教会に必要なものなのです。

ああ、あなたがたは、にわとりになりたいのではありません。

まさにその通りです。

はい、その通りです。

57 ああ、兄弟よ、あの焼き印というものは！

私は昔、牛を山へ追い上げて行く時、古い鞍の前橋に膝をかけて座り、そこで牧場監視員が牛たちの通って行くのを見ている様子を、よく眺めていたものです。

私たちの焼き印は「トライポッド」でした。

グライムズのところは、たしか「ダイヤモンド・ティー・バー」でした。

ほかにも、さまざまな印、さまざまな焼き印を付けた牛たちが通って行きました。

けれども、その監視員は、焼き印にはあまり注意を払いませんでした。

彼が見ていたのは、血統票だったのです。

アーメン。

神がご覧になるのも、それなのです。

神は血のしるしをご覧になるのです。

あなたにどんな焼き印が付いているかなど、神は気になさいません。

なぜでしょうか。

その牧草地に入ることができたのは、純血のヘレフォード種だけだったからです。

58 そして、天の門に入ることができるのは、イエス・キリストの血によって新しく生まれた者だけなのです。

あなたが何をしようとして、

どれほど知的であろうと、

どれほど優れた説教者であろうと、

どれほど良い教会員であろうと、

それは関係ありません。

イエス・キリストの血によって生まれ、その血のしるしがあなたについていなければ、あなたは決して中へ入ることはできません。

それがすべてなのです。

「わたしは血を見る時、あなたを過ぎ越す。」

それだけです。

血のしるしが正しければ、主はあなたを中へ入れてくださいます。

神は、ご自身の御子の血が教会の上にあるかをご覧になるのです。

59 この年老いた母鷲は、その小さな鷲たちを見守っています。

ああ、いつでもそうです。

彼らは座ることができません。

どこもかしこも、とげ、とげ、とげなのです。

さて、その巣の中にいるペンテコステの教会には、もう一つなされなければならぬことがあります。

彼らが巣に縛られたままにならないためです。

そうです……いいですか、今、私は組織に反対しているのではありません。

そのように受け取らないでください。

私が言おうとしているのは、ただ、そこを終着点にしてはいけないということです。

それらは良いものです。

私は組織を好んでいます。

私はそのすべてに属しています。分かりますね。

確かにそうです。はい、その通りです。

私はその中に生まれたのです。

教会の中にいるすべての者と共に、私はそこに生まれました。

けれども、そこで止まってははいけません。

その組織のところで止まってはいけないのです。

神と共に、さらに進み続けなさい。

ついには、そこから出て、ひとりで飛ぶところまで行くのです。

60 さて、気がつくと、年老いた母鷲は、自分の子どもたちに少し経験をさせようと決めます。

彼らは教会に加わり、すべては順調に見えます。

けれども、だんだん刺さるようになってくるのです。

何かが違っているのです。

すると、ある日、年老いた母鷲が巣の前にやって来ます。

彼女はその小さな子たちをよく見渡します。

すると、その子たちには、抜けかかった羽がたくさん付いているのです。

母鷲は知っています。

もしその抜けかかった羽のままで、この小さな子たちを空へ連れて行ったら、彼らは首を折ってしまう、と。

そして私は申し上げます。

もしペンテコステの教会が、しっかりと清められなければ、彼らもまた首を折ることになるでしょう。

そのことを、よく覚えておきなさい。

抜けかかった羽が多すぎるのです。

そこが問題なのです。